

# 由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会 第19回資料 (二級河川高野川水系の概要について)



高野川 新大橋から上流を見る

平成26年3月18日  
京 都 府

# 目次

---

## 高野川流域の概要

位置・諸元	1
地形・地質	4
気象	7
植物・自然公園	8
動物・魚類	11
人口・産業	15
土地利用	17
交通・河川利用	19
利水・水質	21
歴史・文化	23
河川改修の経緯	25
浸水被害状況	27
高潮	31

---

# 高野川水系の概要 (1-① 位置・諸元)

## 位置図

### ■流域の概要

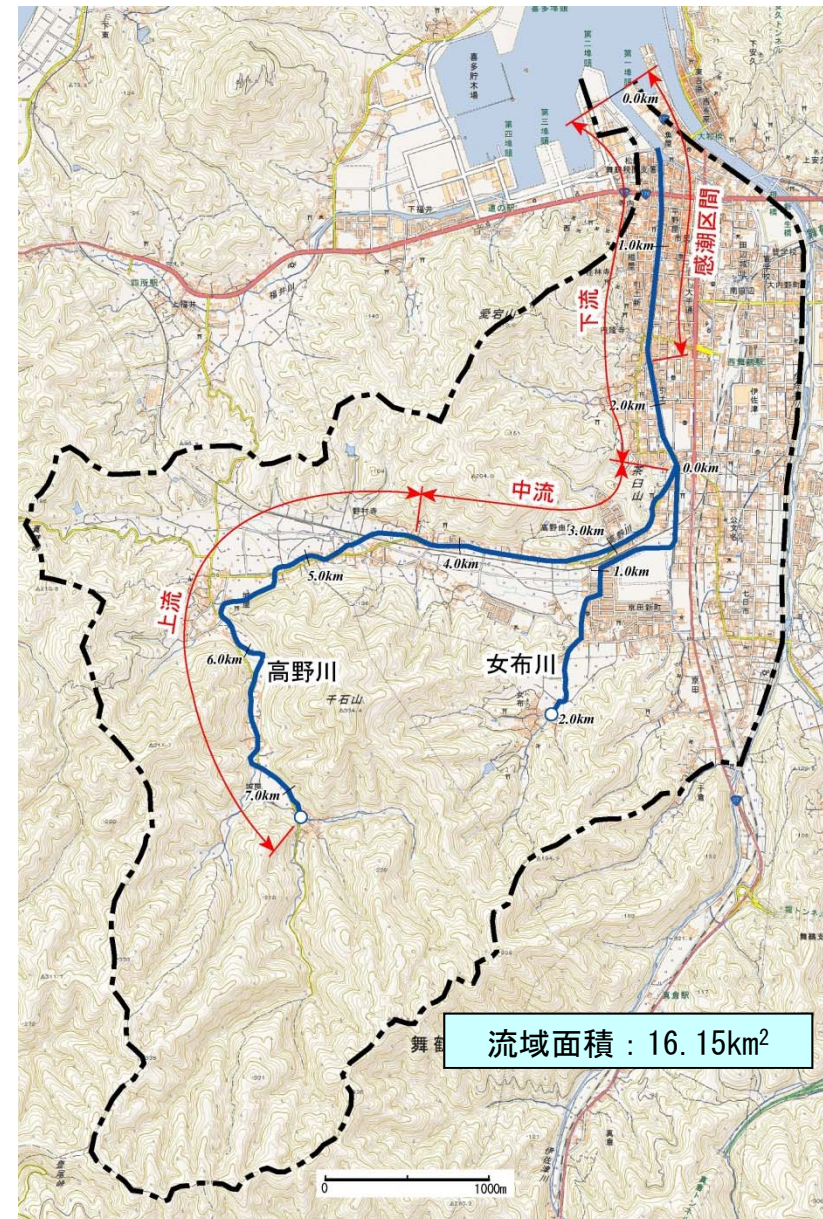
高野川(たかのかわ)は、舞鶴市登尾峠に源を発し、城屋、高野由里集落を流下し、西舞鶴市街地を貫流したのち西舞鶴湾に注ぐ、幹川流路延長6.8km、流域面積16.15km<sup>2</sup>の二級河川である。

【京都府域図】



【高野川水系の河川一覧】

No.	河川名			流域面積 (km <sup>2</sup> )	河川延長 (km)
	本川	一次支川	二次支川		
1	高野川			12.83	6.8
2		女布川		3.32	2.0
合計				16.15	8.8

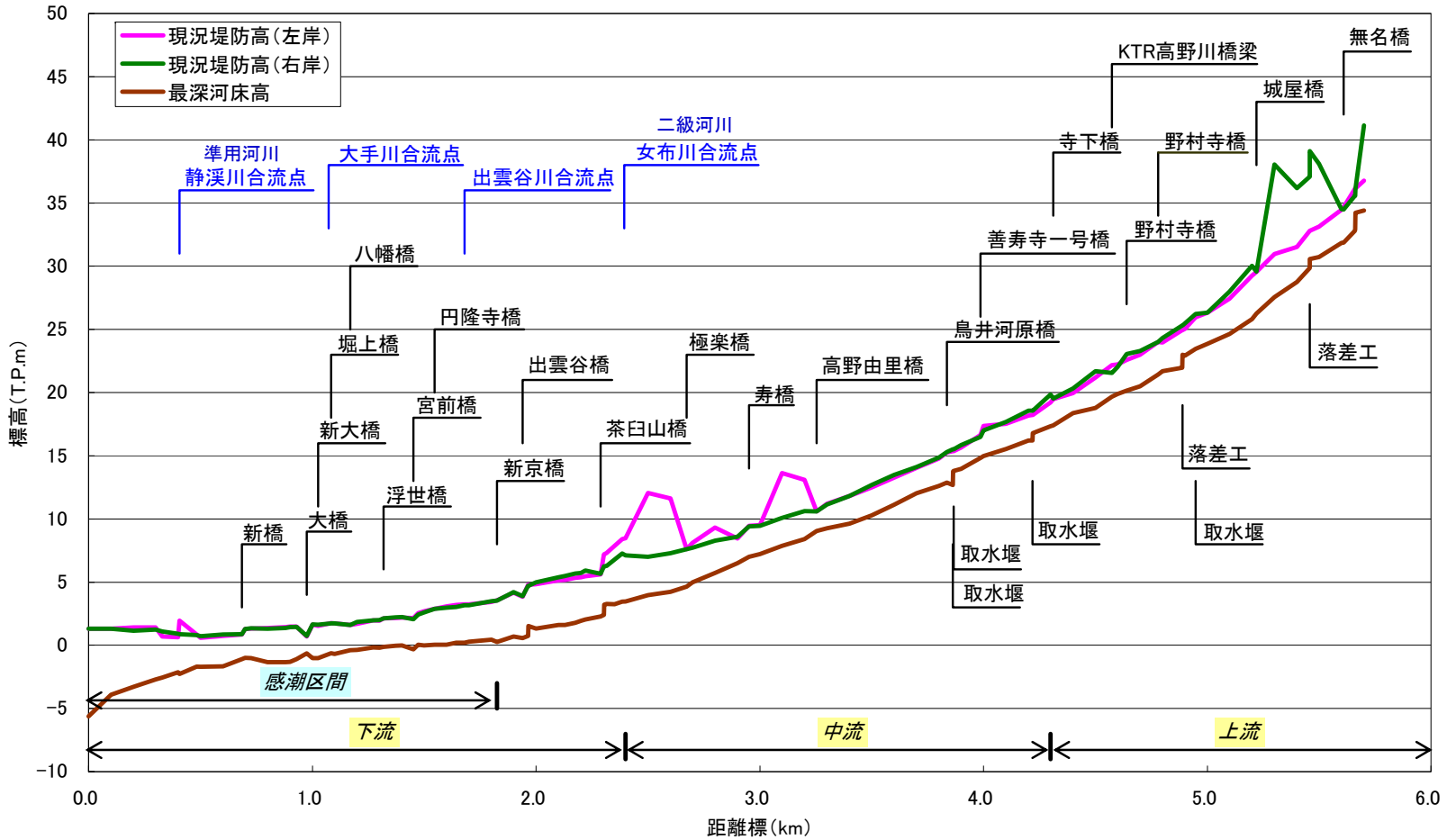


# 高野川水系の概要 (1-① 位置・諸元)

## 高野川の縦断図

### ■ 縦断勾配

高野川の河床勾配は、上流部(寺下橋上流)は約1/50、中流部(茶臼山橋上流)は約1/200、下流部は約1/600と緩くなり、舞鶴湾の潮汐が影響を与える感潮区間は、新京橋付近(河口から1.7km)まで及ぶ。

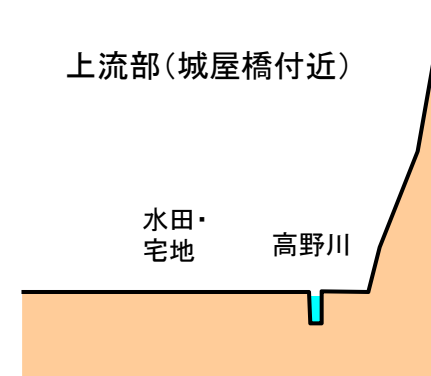
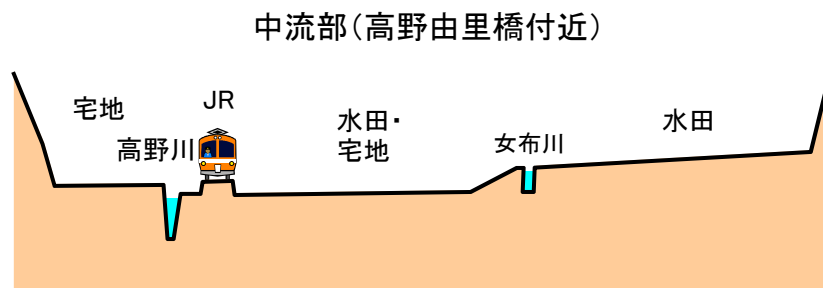
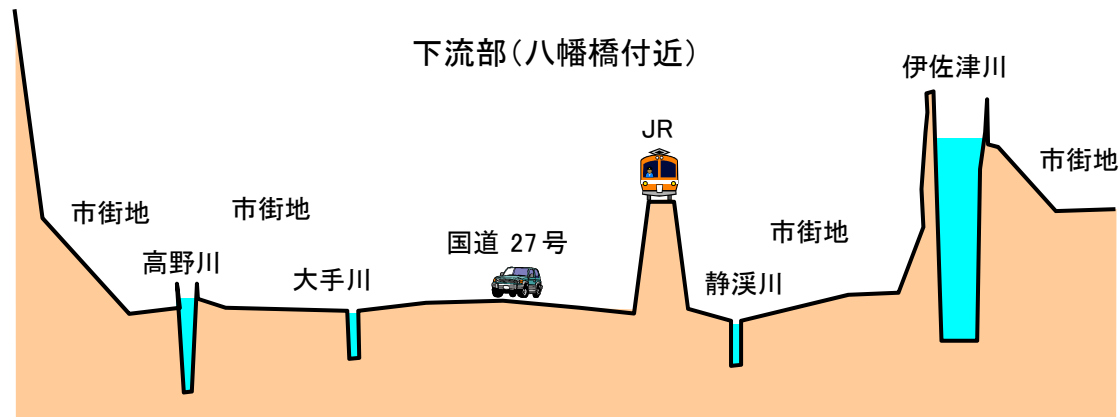


# 高野川水系の概要 (1-① 位置・諸元)

## 高野川の横断図(イメージ)

### ■横断形状

上流部は堀込み河道であり、中流部は堀込み区間と築堤区間が混在しており、堤防高は低い。下流部は概ね堀込み河道で、パラペットとなっている区間もあり、パラペットは縦断的に連続しておらず、一部切れている区間もある。兩岸の堤内地には、田辺藩の城下町・商港から発展した中心市街地が広がっている。

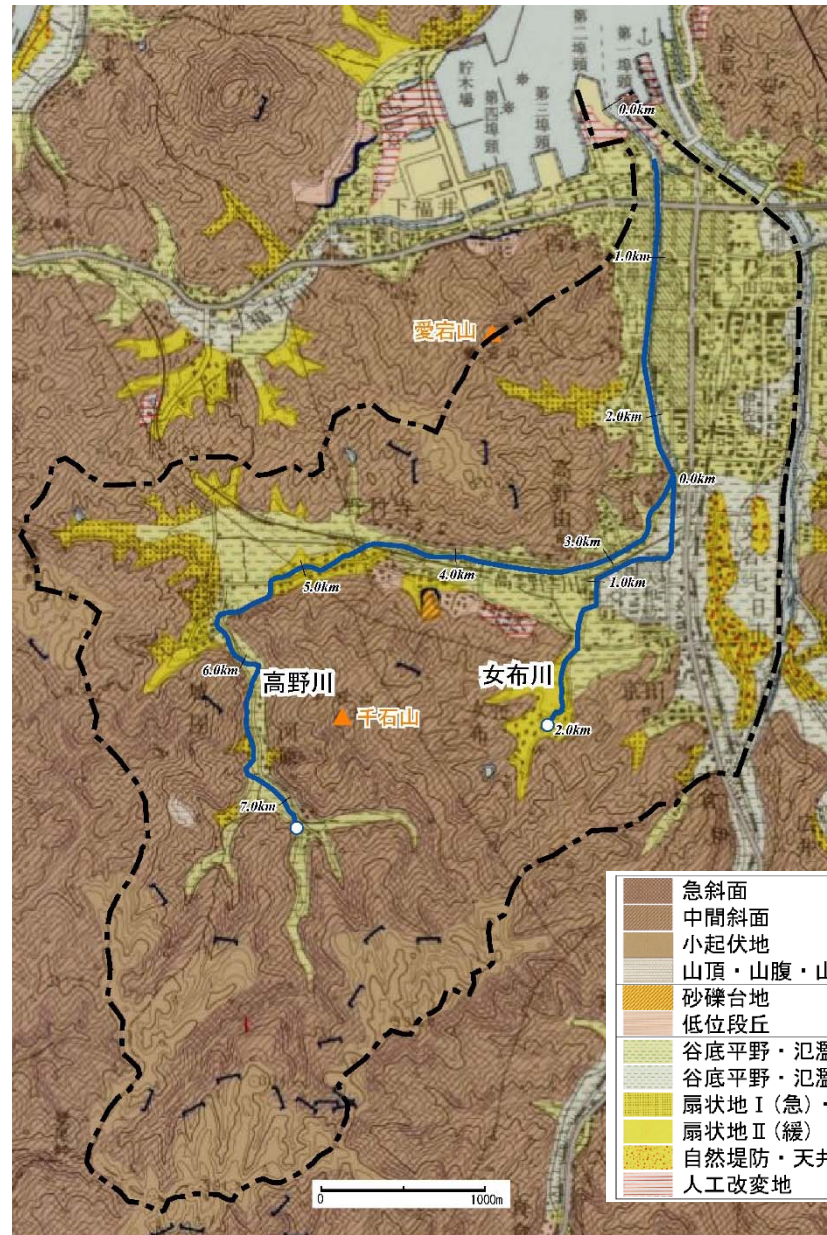


# 高野川水系の概要 (1-② 地形・地質)

## 地形

### ■地形

- 高野川本川は、南北方向と東西方向に発達した谷沿いに屈曲しながら流下している。
- 流域の大部分を山地が占めているにもかかわらず、沖積地より上流の山間部が短い。
- 上流域では河川周辺沿いに谷底平野・氾濫平野が見られる。中流域および下流域では谷底平野・氾濫平野が広がっており、地盤高が低く河川洪水や内水はん濫のほか、特に下流域では高潮による影響が懸念される。



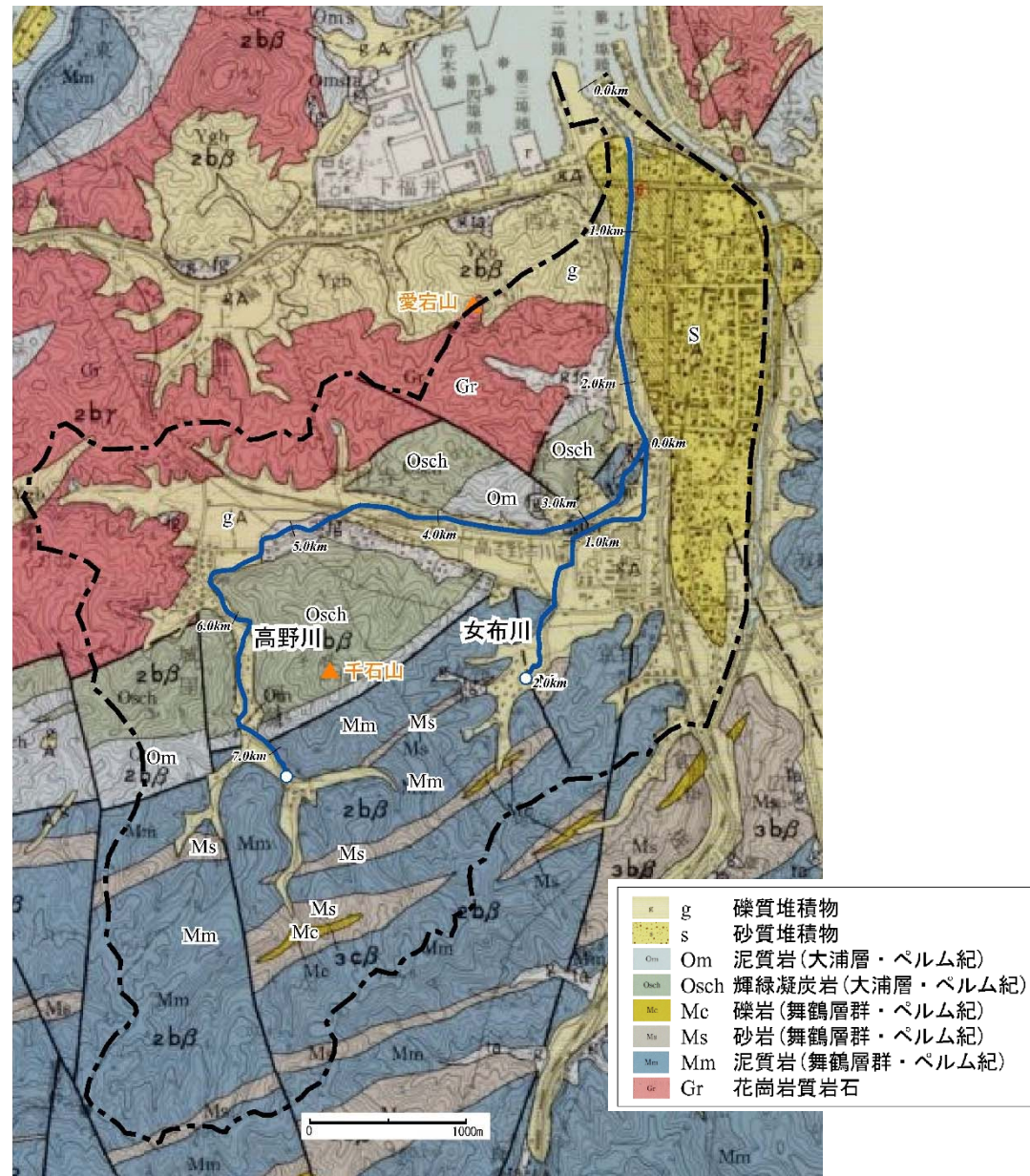
出典：地形分類図（京都府）昭和62年

# 高野川水系の概要 (1-② 地形・地質)

## 地質

### ■地質

- 中・上流域の地質は、舞鶴層群、泥質岩、輝緑凝灰岩が主体である。
- 上流域は、左岸側では泥質岩(M<sub>m</sub>)、右岸側では花崗岩質岩石(Gr)が広がっている。
- 中流域では礫質堆積物が、下流域では砂質堆積物が広がっている。



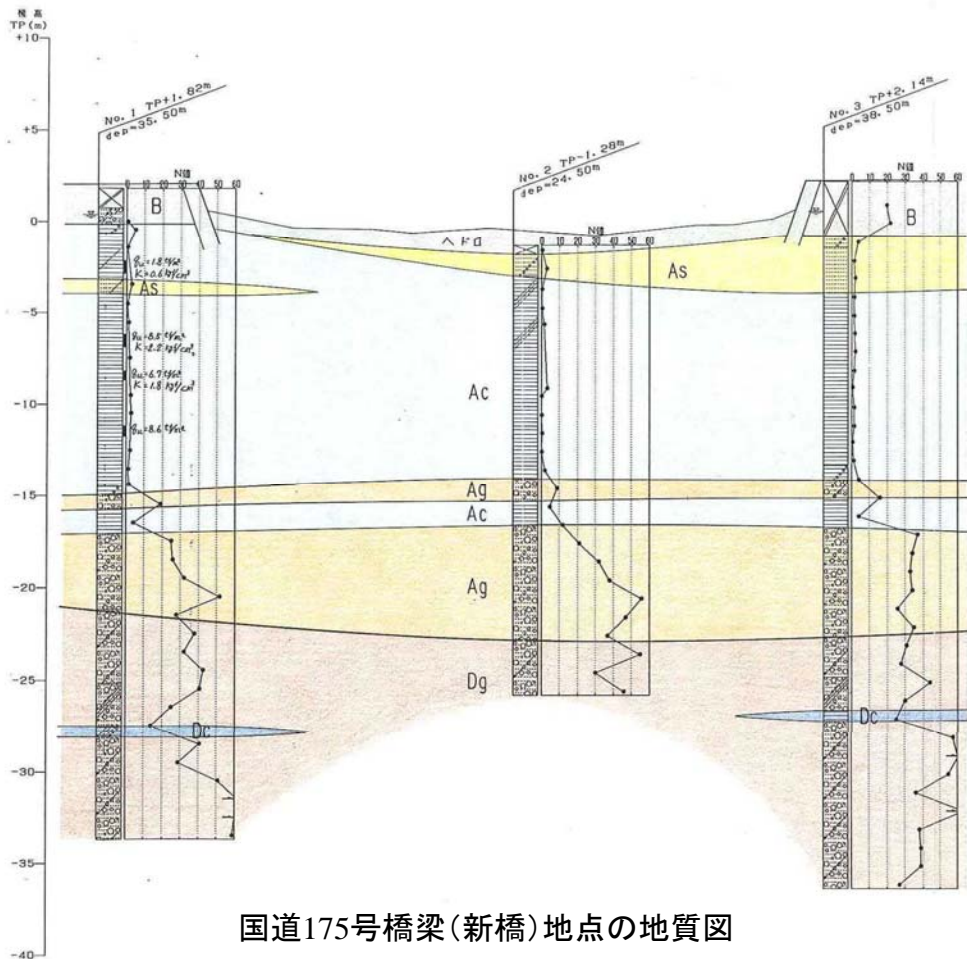
出典：表層地質図（京都府）昭和62年

# 高野川水系の概要 (1-② 地形・地質)

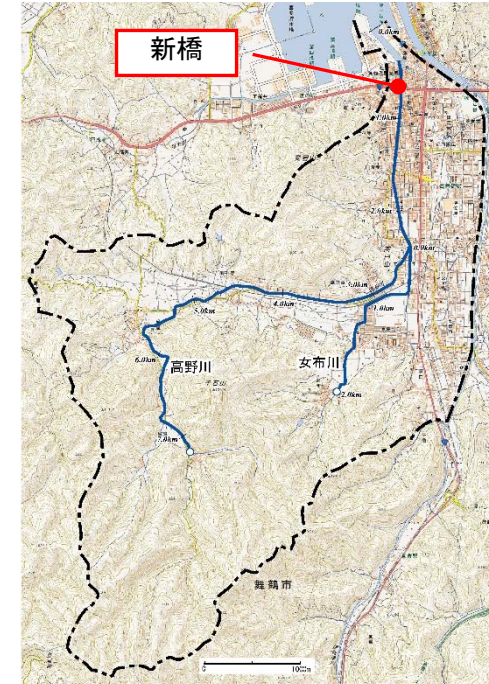
## 下流部の地質状況

### ■高野川下流部の地質(軟弱地盤)

- 河口部付近には、沖積粘性土層(Ac)が地表から深度15m程度まで分布し、N値が1~3程度の軟弱地盤となっている。
- その下位には、沖積礫質土層(Ag)が層厚5m程度分布し、N値が20~30程度以上で締まっている。



国道175号橋梁(新橋)地点の地質図





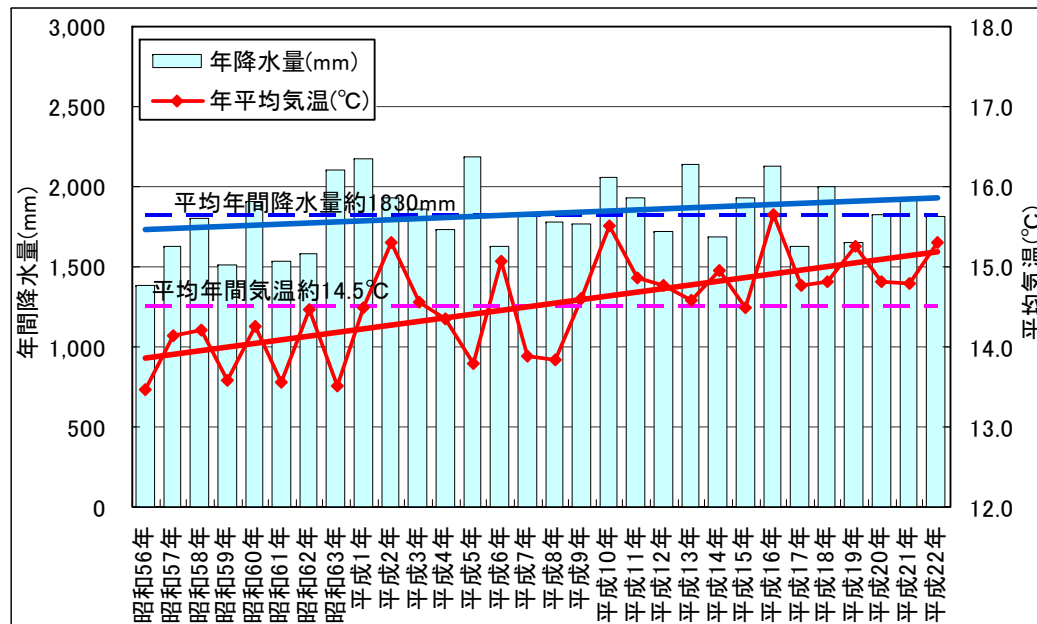
# 高野川水系の概要 (1-③ 気象)

## 高野川水系の気候区分

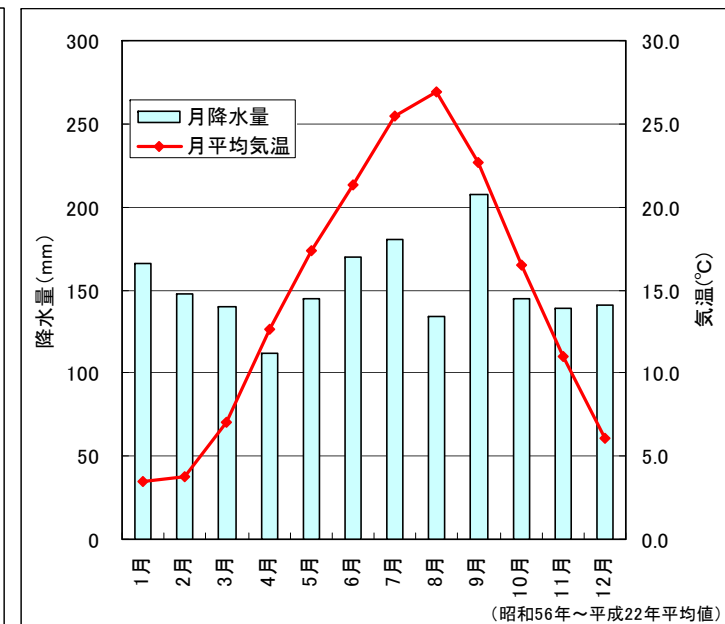
### ■気候

気候は冬期に降水量が多い日本海型気候区に属し、年間降水量は約1,830mmと、全国の年平均降水量(約1,720mm)と比較して若干多い。年平均気温は約14.5℃であり、夏期平均気温は25℃程度、冬期平均気温は約5℃程度である。昭和56年～平成22年の経年変化としては、気温や降水量は若干の増加傾向にある。舞鶴湾沿岸域での冬の気温は比較的高いため、府内の他の日本海側地域と比べ積雪量は少ないが、山地域においては冬の気温は低いため、積雪も多い。

【年間降水量と平均気温の推移】



【月合計降水量と月平均気温】



出典：気象庁舞鶴海洋気象台アメダスデータより作成

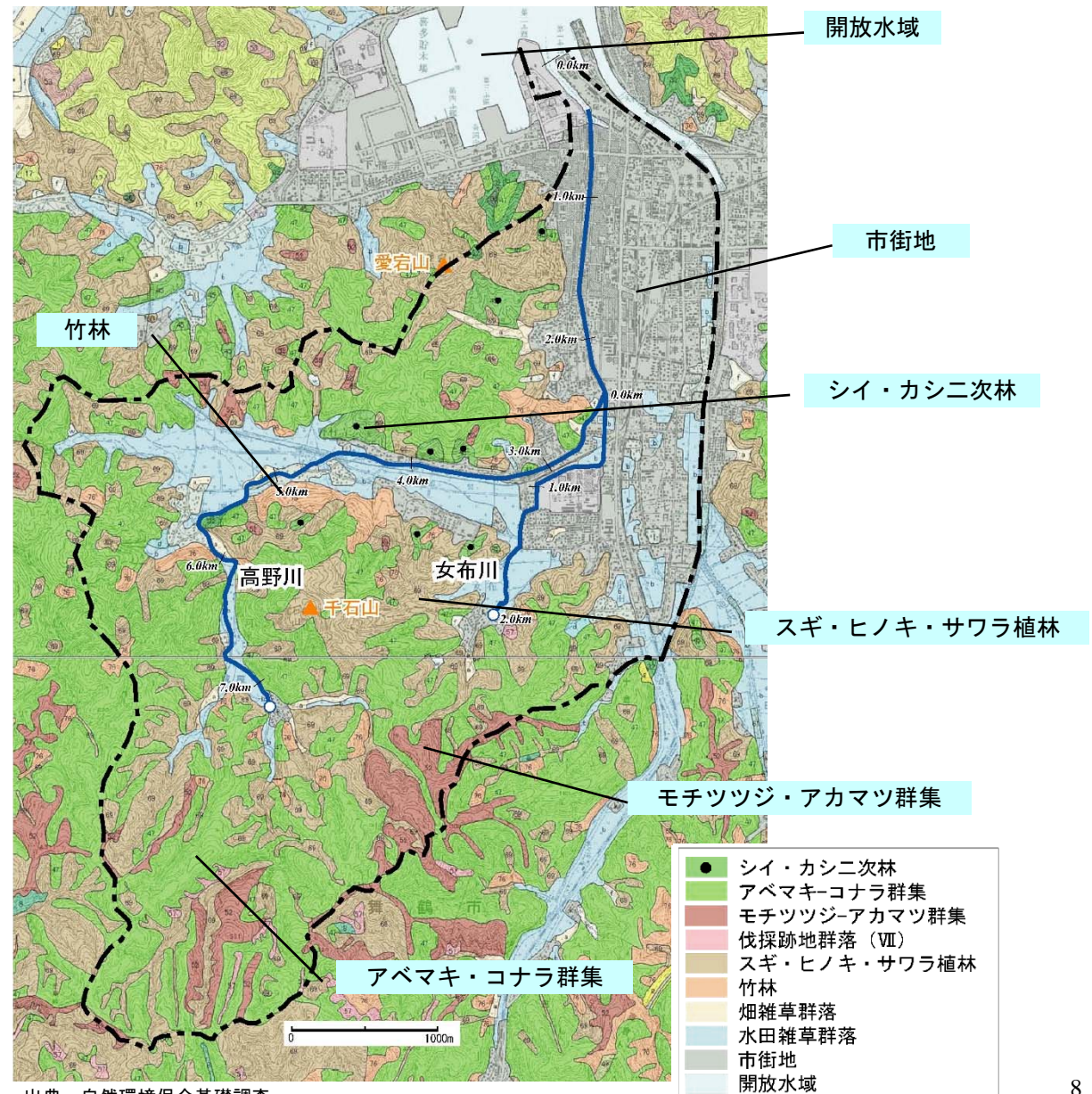
# 高野川水系の概要 (1-④ 植物・自然公園)

## 植生 ①

### ■ 植生

流域の広い範囲でアベマキ-コナラ群集、モチツツジ-アカマツ群集が分布している。また、中流部の河川沿いにはまとまった竹林が見られる。

中流部及び下流部では、植樹林群や民家などの人工構造物が大半を占める。



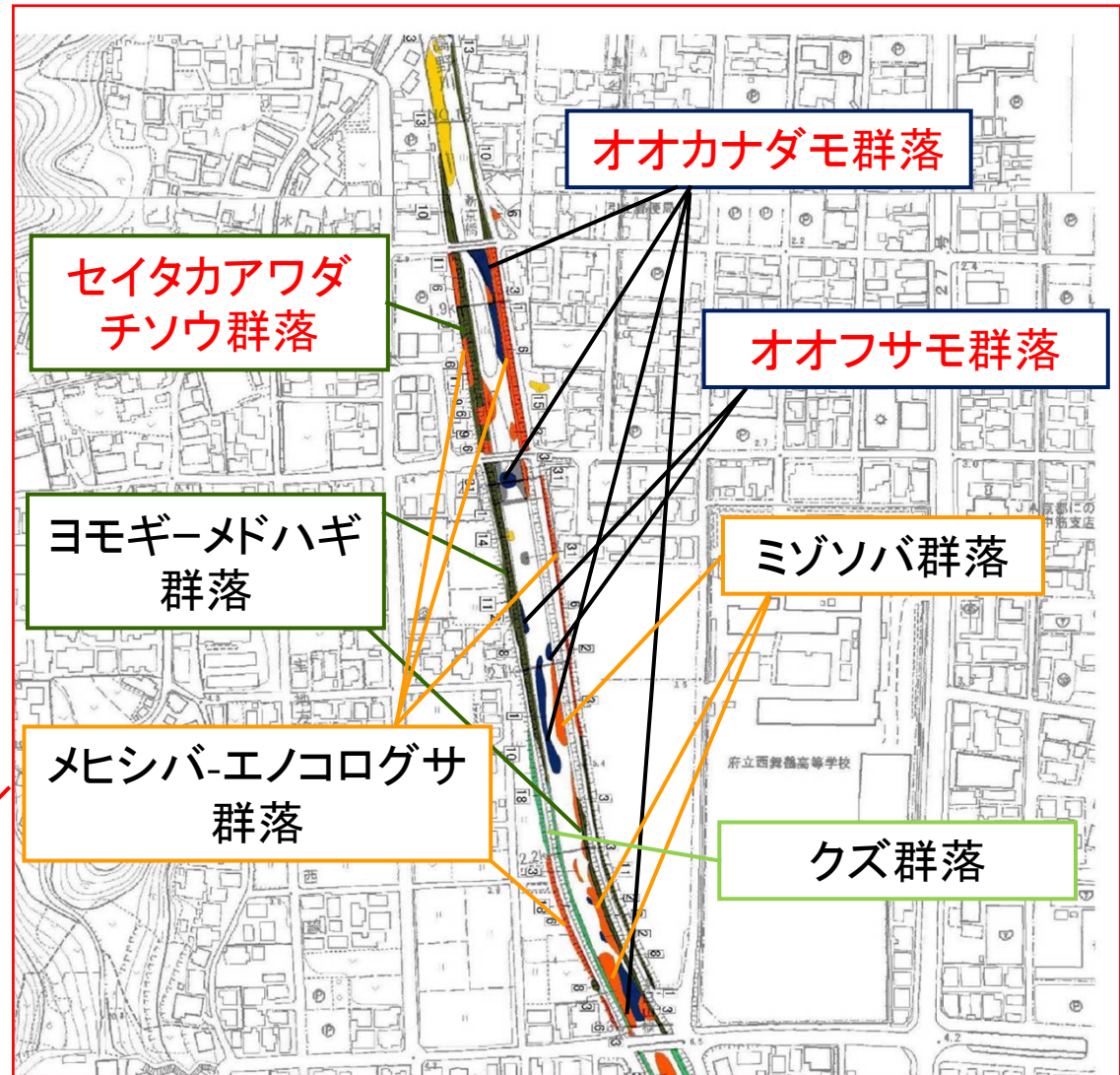
出典：自然環境保全基礎調査

# 高野川水系の概要 (1-④ 植物・自然公園)

## 植生 ②

### ■ 植生

平成20年度調査では、堤外の水際は、ミゾソバ群落などの湿生の一年生草本群落が大きな面積を占めていた。一方、護岸及び堤防上では、メシバ-エノコログサ群落やヨモギ-メドハギ群落が大半を占め、セイタカアワダチソウやクズなどの大型の多年生草本が優占する群落のパッチ状に分布していた。また、流水内の一部では、沈水性の外来植物であるオオカナダモ群落やオオフサモ群落がみられた。



※赤字は外来種

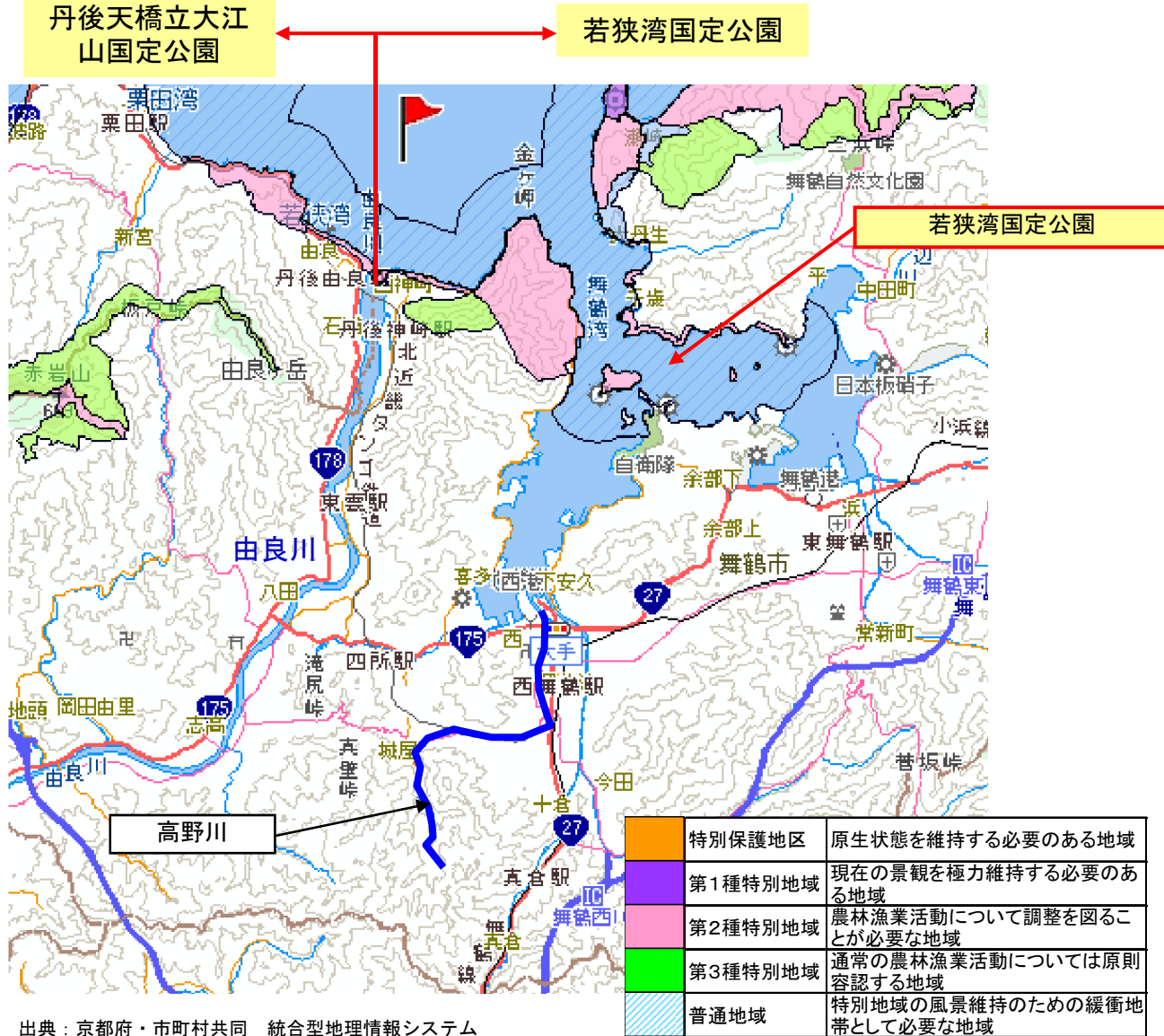
# 高野川水系の概要 (1-④ 植物・自然公園)

## 自然公園指定状況

**■自然公園指定状況**

高野川の流入する舞鶴湾は、複雑な海岸線を持つリアス式海岸が形成され、その一部が若狭湾国立公園に含まれる。

昭和30年に指定された若狭湾国立公園は、平成19年8月に丹後天橋立大江山国立公園の新規指定とあわせて、その区域が見直され現在にいたる。京都府域の面積は、3,738ヘクタールになる。



出典：京都府・市町村共同 統合型地理情報システム

# 高野川水系の概要 (1-⑤) 動物・魚類

## 動物

### ■動物

#### 【底生動物】

98種が確認され、希少種として、モクズガニ、キイロサナエ、ヒメサナエ、ゲンジボタルの4種、外来種としてアメリカザリガニが確認されている。

#### 【鳥類】

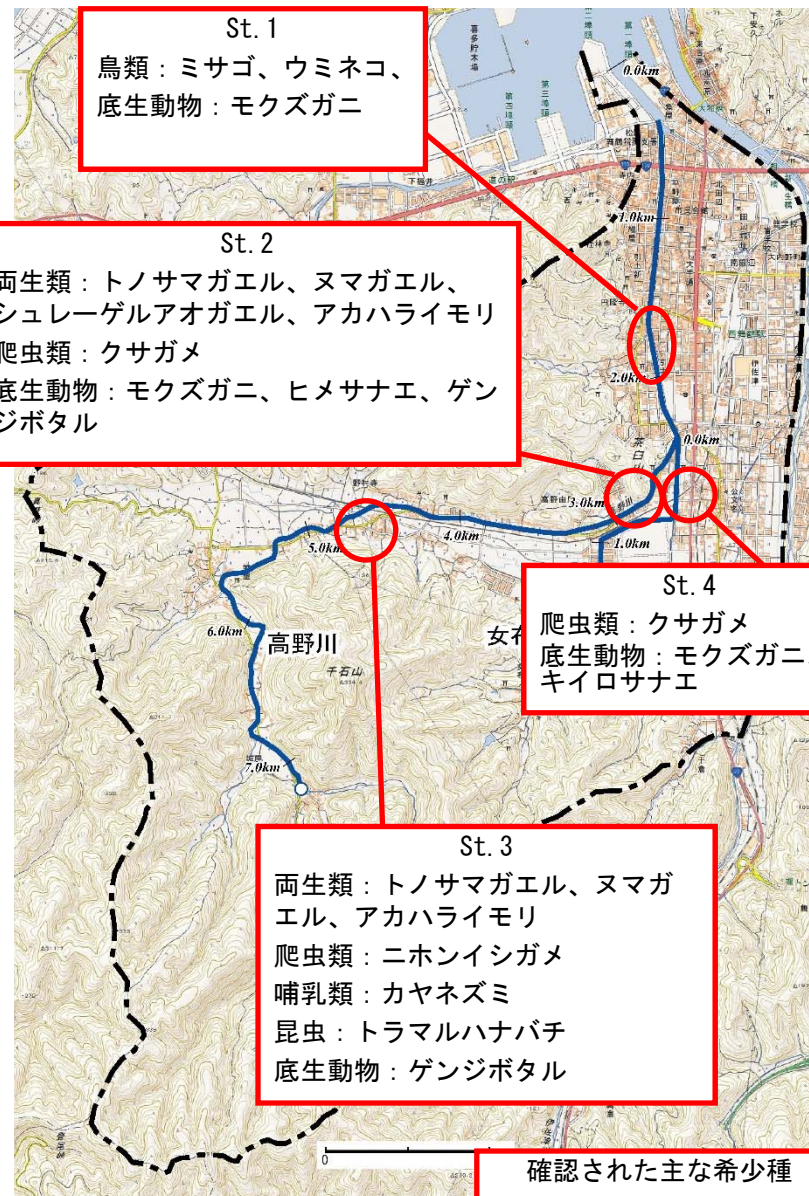
37種が確認され、希少種としてミサゴ、ウミネコの2種が確認されており、外来種の確認はなかった。

#### 【小動物】

両生類7種、爬虫類5種、哺乳類4種が確認され、希少種として、アカハライモリ、シュレーゲルアオガエル、ニホンイシガメ、カヤネズミなど9種が確認されており、外来種の確認はなかった。

#### 【昆虫類】

198種が確認され、希少種としてセスジイトトンボ、トラマルハナバチが確認されており、外来種の確認はなかった。



# 高野川水系の概要 (1-⑤) 動物・魚類

## 希少種

種名		選定基準				
		天然	種の保存	環境省RL	京都府RL	京都府条例
底生動物	モクズガニ				要注目種	
	キイロサナエ			NT	準絶滅危惧種	
	ヒメサナエ				要注目種	
	ゲンジボタル				要注目種	
鳥類	ミサゴ			NT	絶滅危惧種	
	ウミネコ				要注目種	
両生類	アカハライモリ			NT	要注目種	
	ニホンアカガエル				要注目種	
	トノサマガエル			NT	要注目種	
	ヌマガエル				要注目種	
	シュレーゲルアオガエル				要注目種	
爬虫類	ニホンイシガメ			NT	要注目種	
	クサガメ				要注目種	
	アオダイショウ				要注目種	
哺乳類	カヤネズミ				準絶滅危惧種	
昆虫類	セスジイトトンボ				要注目種	
	トラマルハナバチ				準絶滅危惧種	

●天然

「文化財保護法」  
(昭和25年、法律第214号)

●種の保存

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」  
(平成4年、法律第75号)

●環境省RL

環境省第4次レッドリスト(哺乳類2012年改訂、鳥類2012年改訂、爬虫類2012年改訂、両生類2012年改訂、昆虫類2012年改訂、貝類2012年改訂、その他無脊椎動物2012年改訂)

EX(絶滅)、ER(野生絶滅)

CR;EN(絶滅危惧Ⅰ類)

VU(絶滅危惧Ⅱ類)

NT(準絶滅危惧)、DD(情報不足)

LP(絶滅のおそれのある地域個体群)

●京都府RL

「京都府改訂版レッドリスト2013」  
(平成25年、京都府)

●京都府条例

「指定希少野生生物の取扱に関するハンドブック」  
(平成19年10月、京都府文化環境部 自然環境保全課)

※空欄は該当なし

# 高野川水系の概要 (1-⑤) 動物・魚類

## 魚類

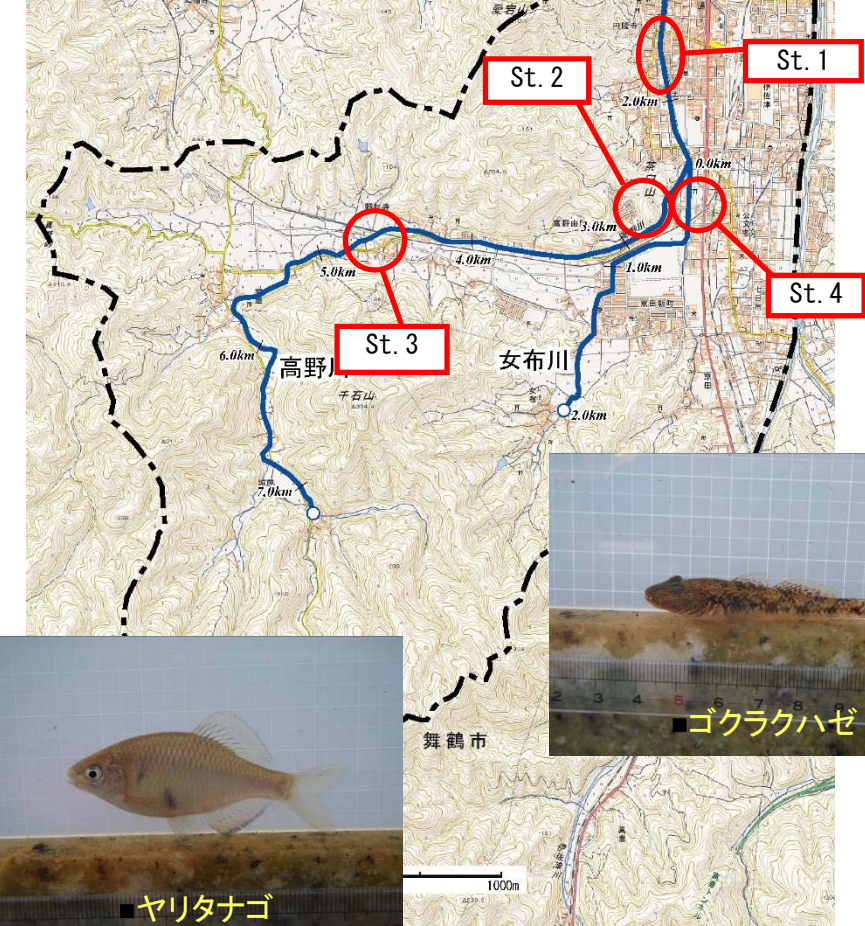
■ 魚類

平成20年度の調査では、希少種として、ヤリタナゴ、ドジョウ、メダカ、ゴクラクハゼが確認されている。

外来種では、タイリクバラタナゴ、アメリカザリガニが確認されている。

St.2
オイカワ
カワムツ
ムギツク
タモロコ
カマツカ
シマドジョウ
ドンコ
シマヨシノボリ

St.3
ギンブナ
オイカワ
カワムツ
タカハヤ
タモロコ
カマツカ
ドジョウ
シマドジョウ
ドンコ
スミウキゴリ
シマヨシノボリ
カワヨシノボリ



St.1
コイ
ギンブナ
オイカワ
カワムツ
ウグイ
ムギツク
タモロコ
カマツカ
ドジョウ
シマドジョウ
アユ
スズキ
ボラ
ドンコ
スミウキゴリ
ウキゴリ
ビリンゴ
マハゼ
ゴクラクハゼ
ヌマチチブ
St.4
ギンブナ
ヤリタナゴ
タイリクバラタナゴ
オイカワ
カワムツ
ムギツク
タモロコ
カマツカ
ドジョウ
シマドジョウ
ナマズ
メダカ
ドンコ

平成20年度調査結果より

# 高野川水系の概要 (1-⑤ 動物・魚類)

## 希少種(魚類)

※空欄は該当なし

種名	選定基準				
	天然	種の保存	環境省RL	京都府RL	京都府条例
ヤリタナゴ			NT	準絶滅危惧種	
ドジョウ			DD		
メダカ			VU	絶滅危惧種	
ゴクラクハゼ				絶滅危惧種	

### ●天然

「文化財保護法」  
(昭和25年、法律第214号)

### ●種の保存

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」  
(平成4年、法律第75号)

### ●環境省RL

環境省第4次レッドリスト(汽水・淡水魚類2013年改訂)  
EX(絶滅) ER(野生絶滅) CR;EN(絶滅危惧Ⅰ類) VU(絶滅危惧Ⅱ類) NT(準絶滅危惧) DD(情報不足)  
LP(絶滅のおそれのある地域個体群)

### ●京都府RL

「京都府改訂版レッドリスト2013」  
(平成25年、京都府)

### ●京都府条例

「指定希少野生生物の取扱に関するハンドブック」  
(平成19年10月、京都府文化環境部 自然環境保全課)



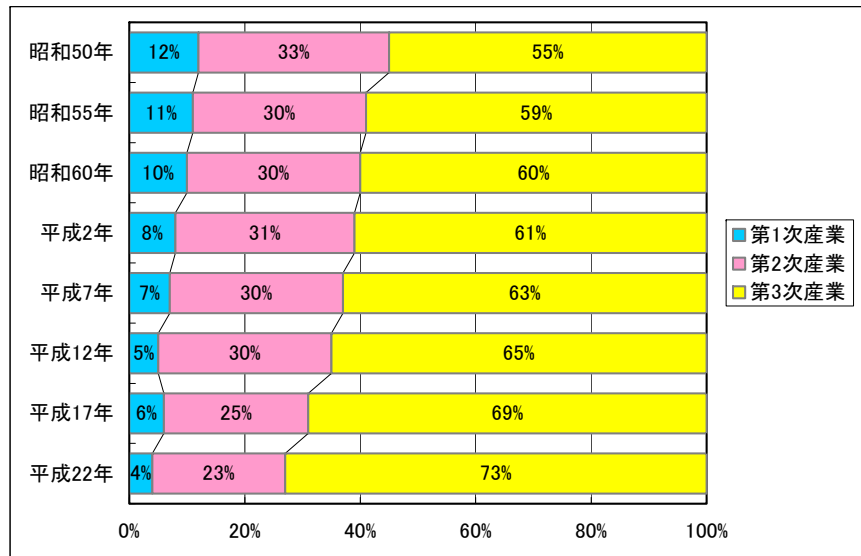
# 高野川水系の概要（1-⑥ 人口・産業）

## 産業

### ■ 産業

- 舞鶴市の産業分類別就業者数は、平成22年度では第1次産業が約4%、第2次産業が約23%、第3次産業が約73%である。経年的に見ると、第1次産業と第2次産業が減少し、第3次産業が増加している。
- 舞鶴市の主な産業は、第2次産業の製造業である。
- 舞鶴港は、舞鶴西港区と舞鶴東港区からなり、舞鶴西港の歴史は古く、安土桃山時代に田辺城下町と共に交易の中心として発展してきており、現在は港則法上の特定港「京都府舞鶴港」に指定され、西港は近畿の国際貿易港として大きな期待を担っている。
- また、舞鶴東港は、海上自衛隊や海上保安庁が配置されるなど海上の安全・治安を守るための拠点港であるとともに、近畿圏と北海道を結ぶ長距離フェリーを中心とする国内貿易港として、丹後地方のみならずさまざまな地域の生活と産業を支える重要な役割を担っている。

【舞鶴市の産業分類別就業者数比率】



出典：舞鶴市統計書

【舞鶴市の経済規模】

産業	経済指標	単位 (億円)	割合 (%)	統計年度
第1次産業	農業産出額	25	1.1%	H17
	漁獲金額	15	0.6%	H19
第2次産業	製造品出荷額	2,146	83.0%	H19
第3次産業	年間商品販売額等	397	15.4%	H19
合計		2,583	100.0%	

※出典：「舞鶴市産業振興ビジョン、資料編」より



舞鶴港(京都舞鶴港振興会HPより)

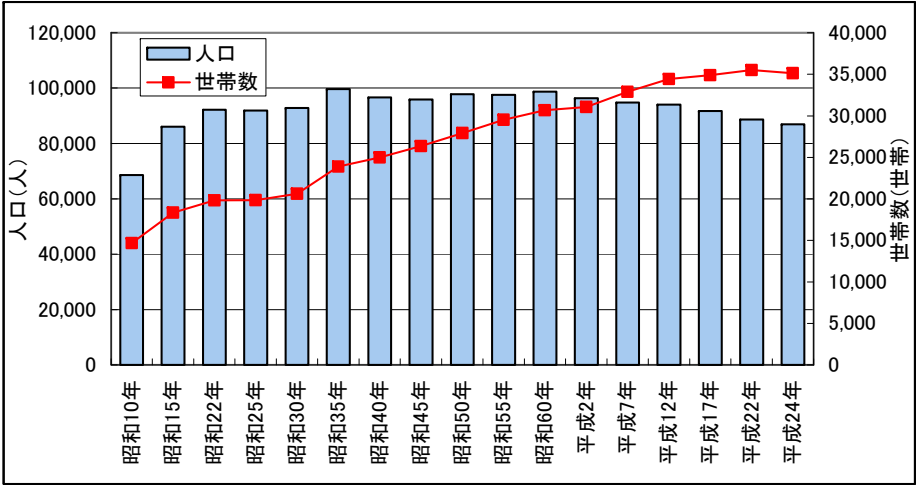
# 高野川水系の概要 (1-⑥) 人口・産業

## 人口

### ■人口

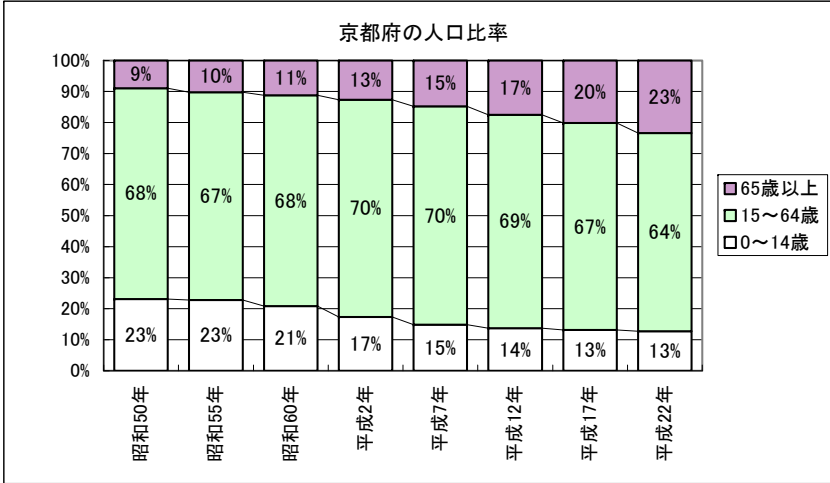
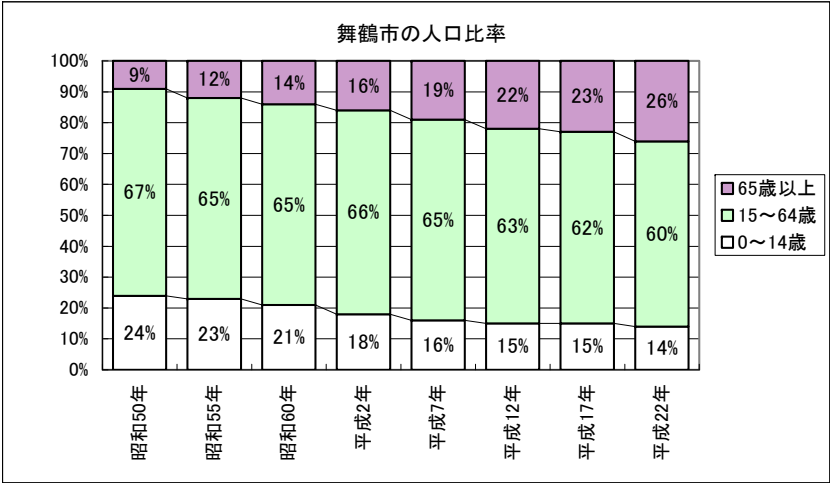
舞鶴市の人口は、昭和60年度以降穏やかに減少しており、平成24年度時点では8.7万人である。世帯数は増加していたが、平成24年には減少に転じている。年齢別階層の65歳以上の比率は平成22年で26%(京都府23%)であり、高齢化の進行が若干高い。

【舞鶴市の人口・世帯数の推移】



出典：舞鶴市統計書

【舞鶴市の年齢別人口比率（京都府全域との比較）】



出典：舞鶴市統計書、総務省統計局HP

# 高野川水系の概要 (1-⑦ 土地利用)

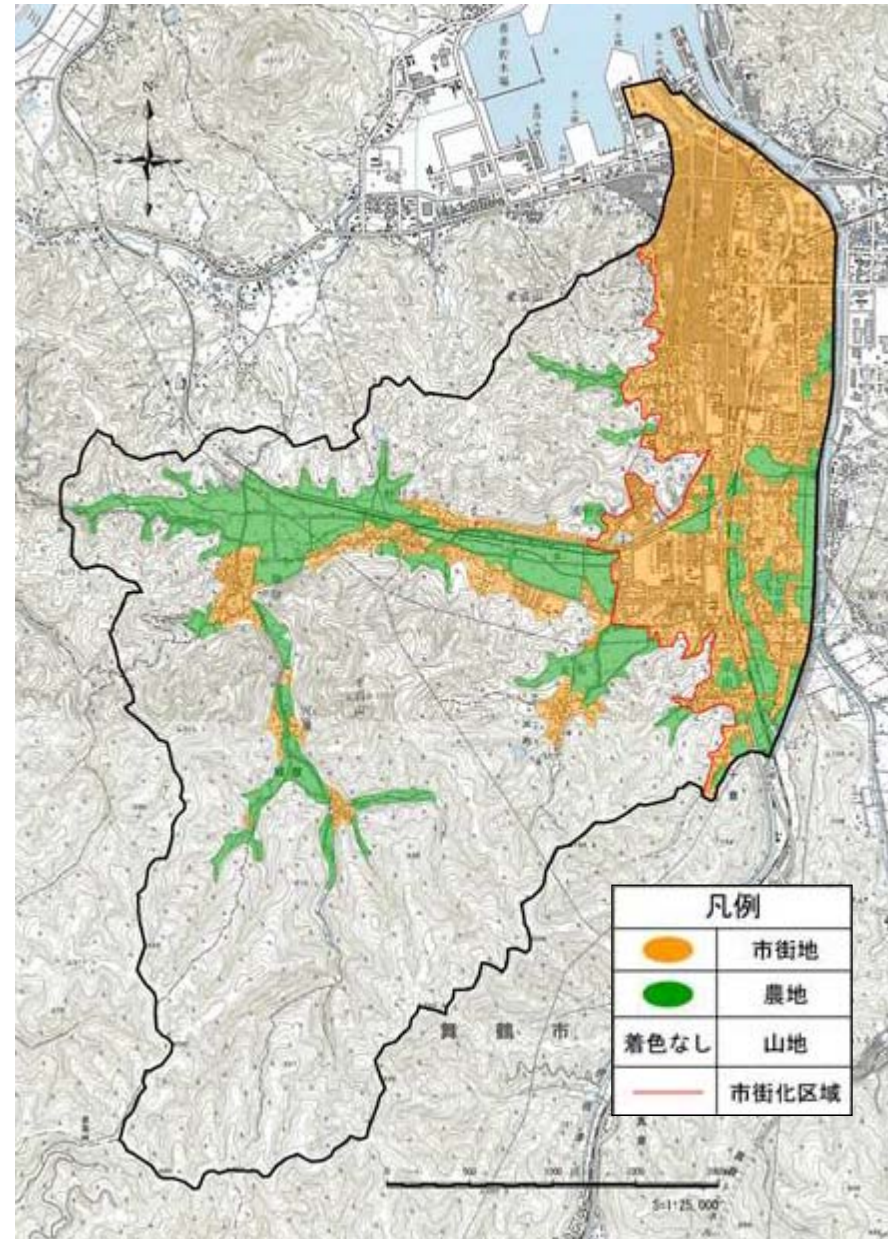
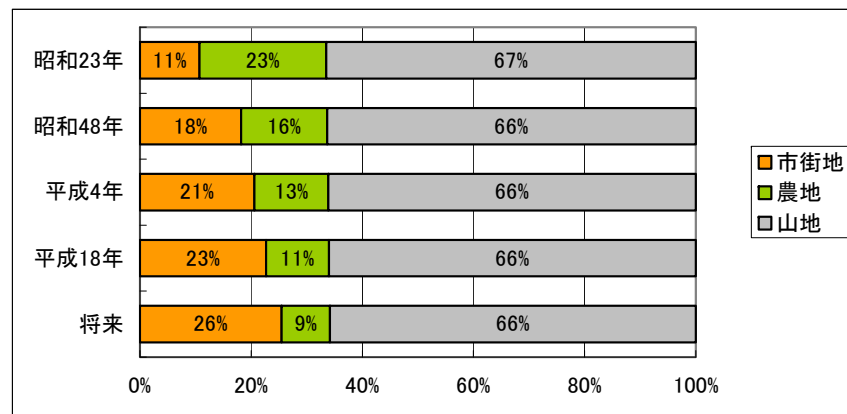
## 現在の土地利用状況

### ■ 土地利用

地目別の土地利用面積比率は、平成18年度では山地が約66%、農地が約11%、市街地が約23%であり、流域の7割程度を山地が占めている。経年的に見ると、農地が減少し、そのぶん市街地が増加している。

年代	流域面積 (Km <sup>2</sup> )	地目			備考
		市街地	農地	山地	
昭和23年	16.15 (100)	1.72 (10.7)	3.69 (22.8)	10.74 (66.5)	
昭和48年	16.15 (100)	2.94 (18.2)	2.51 (15.5)	10.70 (66.3)	
平成4年	16.15 (100)	3.32 (20.6)	2.15 (13.3)	10.68 (66.1)	
平成18年	16.15 (100)	3.66 (22.7)	1.83 (11.3)	10.66 (66.0)	
将来	16.15 (100)	4.12 (25.5)	1.40 (8.7)	10.63 (65.8)	市街化区域は 100%市街化

下段( )は率(%)

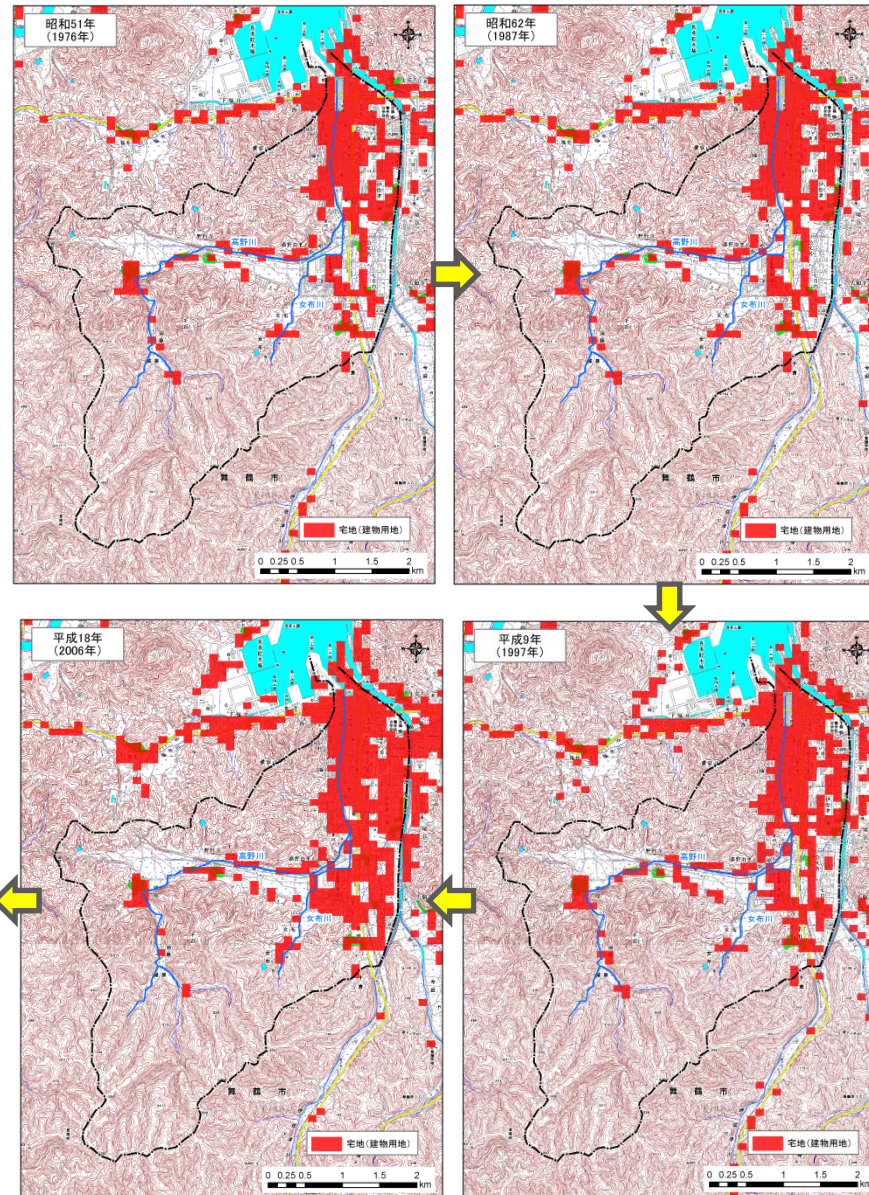


# 高野川水系の概要 (1-⑦ 土地利用)

## 市街地の変遷

### ■市街地の変遷

- 女布川下流の右岸側において、平成9年以降宅地造成等の開発が進み、平成21年時点では平地部のほとんどが宅地化されている状況となっている。
- これに対し、女布川合流点から上流の高野川では、市街地に大きな変化は見られない。

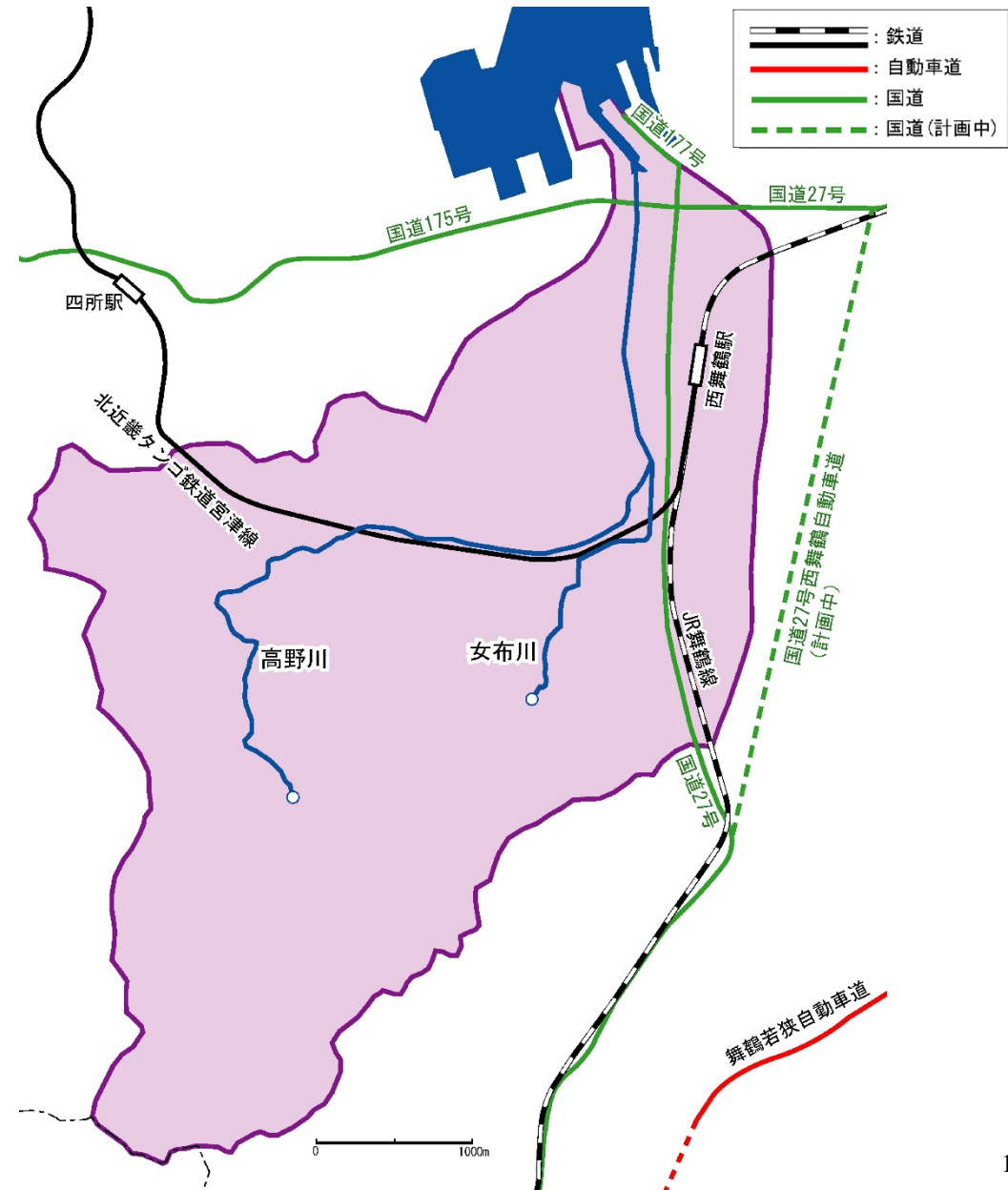


# 高野川水系の概要 (1-⑧ 交通・河川利用)

## 交通

### ■交通

高野川流域の周辺は、JR舞鶴線、宮津市を経て豊岡市(兵庫県)を結ぶ北近畿タンゴ鉄道宮津線が西舞鶴駅で分岐・連絡している。道路網については、国道27号、国道175号、国道177号の他、京阪神方面につながる舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道が整備されるなど、交通の拠点としての機能を有している。



# 高野川水系の概要 (1-⑧ 交通・河川利用)

## 河川利用

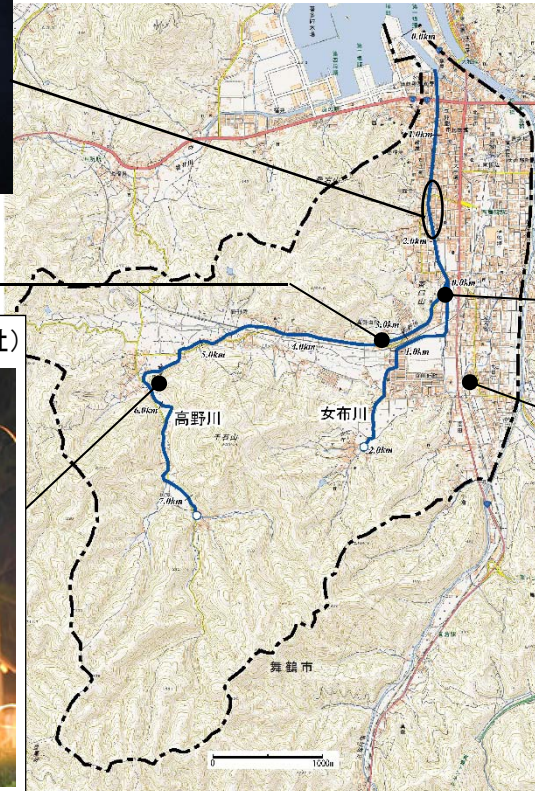
### ■河川利用

- 上流の雨引(あめひき)神社では、雨ごいの儀式として「城屋の揚松明(あげたいまつ)」で知られる火祭りが奉納されている。
- 笠水(かさみず)神社は、古くは高野川、池内川、真倉川が合流していた地にあり、「真名井(まない)の清水」(=笠井)を神格化したものと思われる。
- 真名井の清水は、江戸時代には「御水道(おすいどう)」と称され、田辺城内に引き込まれ、田辺藩の生活用水として利用されていた。
- 学校教育のフィールドとして、近隣の高野小学校の環境学習などに利用されている。
- 下流部では、3月に地域の風物詩である「イサザ(シロウオ)漁」が行われている。

高野小学校環境学習



イサザ(シロウオ): 京都府水産事務所提供



秋祭(笠水神社)



雨引神社



城屋の揚松明(雨引神社)



出典: 京都新聞 2007. 3. 16

真名井の清水



# 高野川水系の概要（1－⑨ 利水・水質）

## 利水

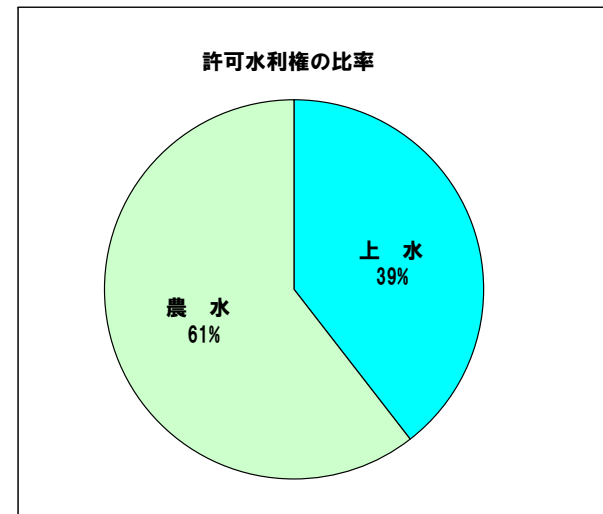
### ■利水

●高野川では、許可水利権における取水量は、最大で約0.1m<sup>3</sup>/sの流水が上水(0.04m<sup>3</sup>/s)と農水(約0.06m<sup>3</sup>/s)に利用されている。慣行水利権は現在24件あり、約48haの農地を灌漑している。

【水利権一覧】

河川名	高野川		
許可水利権	上水	件数	1
		水量(m <sup>3</sup> /s)	0.0385
	農水	件数	4
		水量(m <sup>3</sup> /s)	0.0590
	融雪	件数	0
		水量(m <sup>3</sup> /s)	0
工水	件数	0	
	水量(m <sup>3</sup> /s)	0	
慣行水利権	農水	件数	24
		受益面積(ha)	47.96

※最大取水量

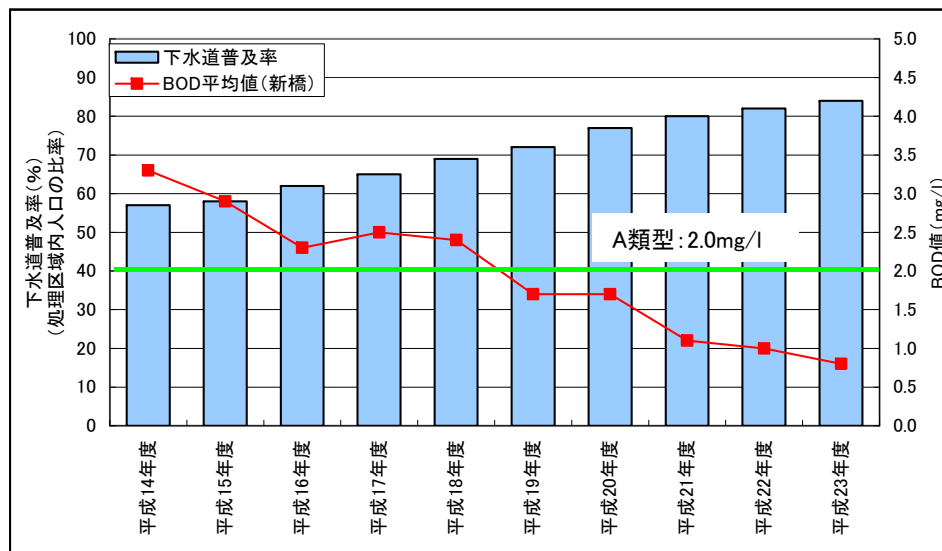


# 高野川水系の概要 (1-⑨) 利水・水質

## 水質

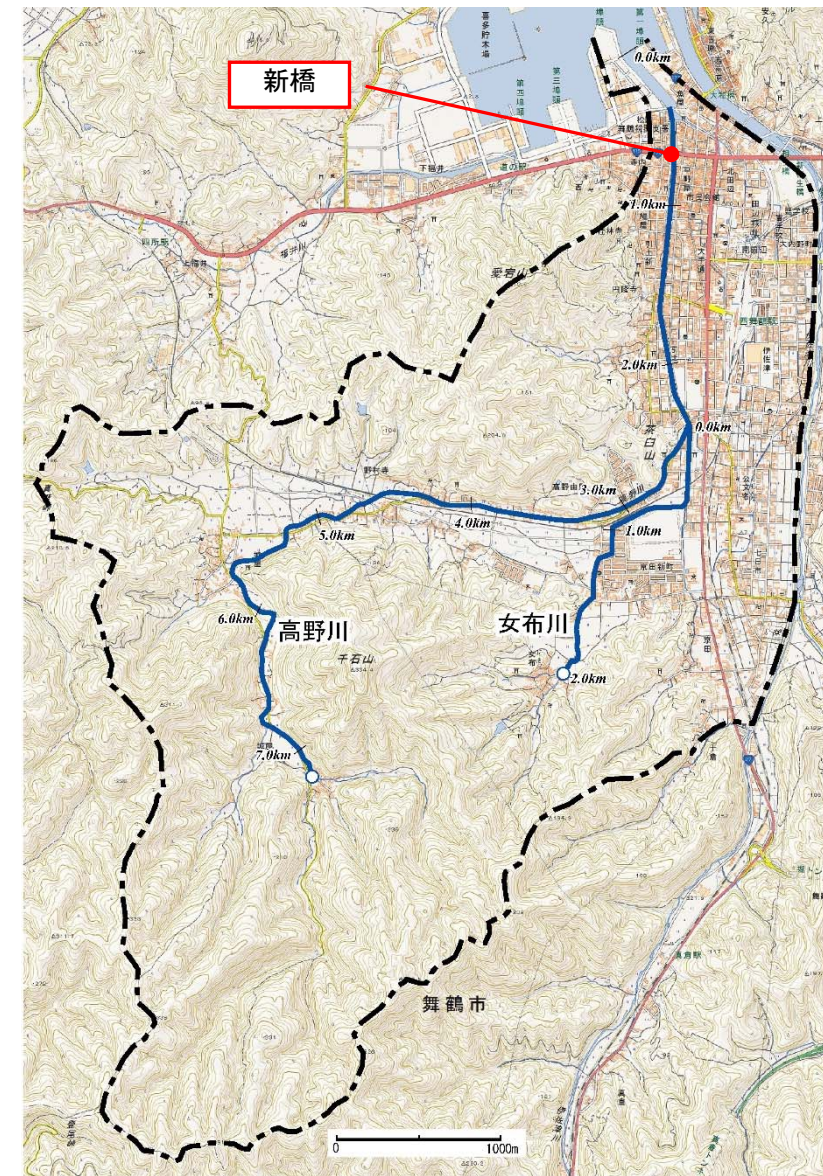
### ■水質

- 高野川の水質は、平成14年度ではBODで3.3mg/lであったが、それ以降は低下傾向にあり、平成19年度には下水道普及率が70%を越え、BODについても通常の水道水として利用できる水質である2.0mg/lを下回っている。
- BODは平成23年度には0.8mg/lまで低下している。



※出典：平成24年度版環境白書（舞鶴市）

【水質測定地点】



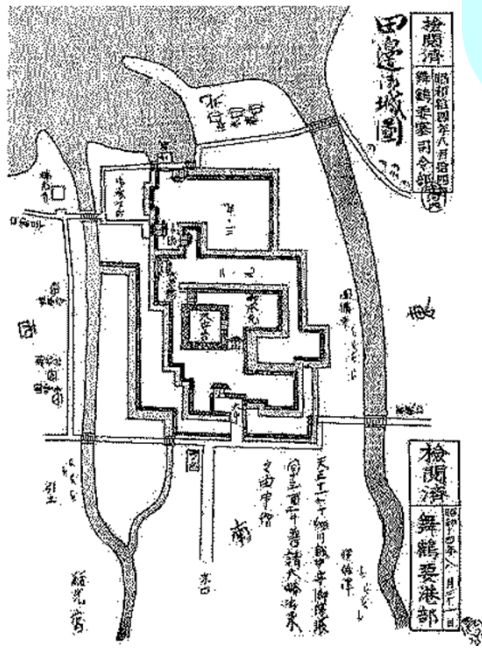


# 高野川水系の概要 (1-⑩ 歴史・文化)

## 歴史

### ■高野川と城下町

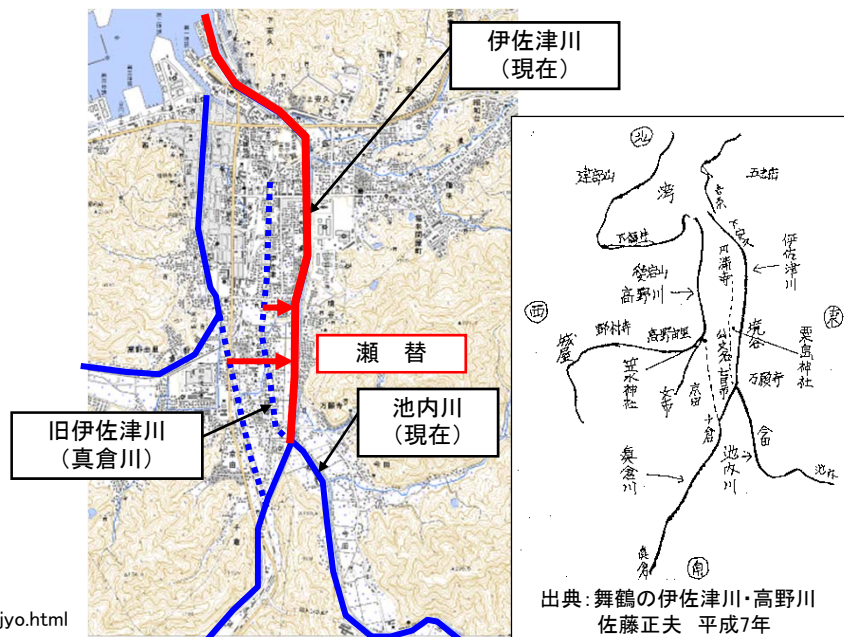
- 高野川が位置する田辺城下は、舞鶴市が誇る武将・文化人である細川幽斎が活躍したところであり、城下町の歴史を活かしたまちづくりが行われている。
- 城下町は、高野川に架かる大橋を境として東西に大別されており、現在も両地域を橋東・橋西の通称で呼ばれている。
- 高野川河口に位置する竹屋町周辺には、「在通い」と呼ばれる行商兼仲買のほか、「丹波通い」「丹波・若州産物売買」など、さまざまな商人が行き来していた。
- また、高野川沿いには各地から運ばれてきた産物を保管する蔵や倉庫があった。
- 高野川に沿って、今もこうした倉庫群が建ち並び、かつて北前船で栄えた当時の面影を色濃く今に残している。
- 昔の伊佐津川は真倉川と称し、高野川に合流していた。流れを替え池内川と合流させたものが現在の伊佐津川である。



▲田辺御城図（慶長5年頃）

出典：丹後の地名、地理・歴史資料集

[http://www.geocities.jp/k\\_saito\\_site/doc/tango/tanabejo.html](http://www.geocities.jp/k_saito_site/doc/tango/tanabejo.html)



伊佐津川の瀬替



▲高野川倉庫群

出典：舞鶴の伊佐津川・高野川  
佐藤正夫 平成7年

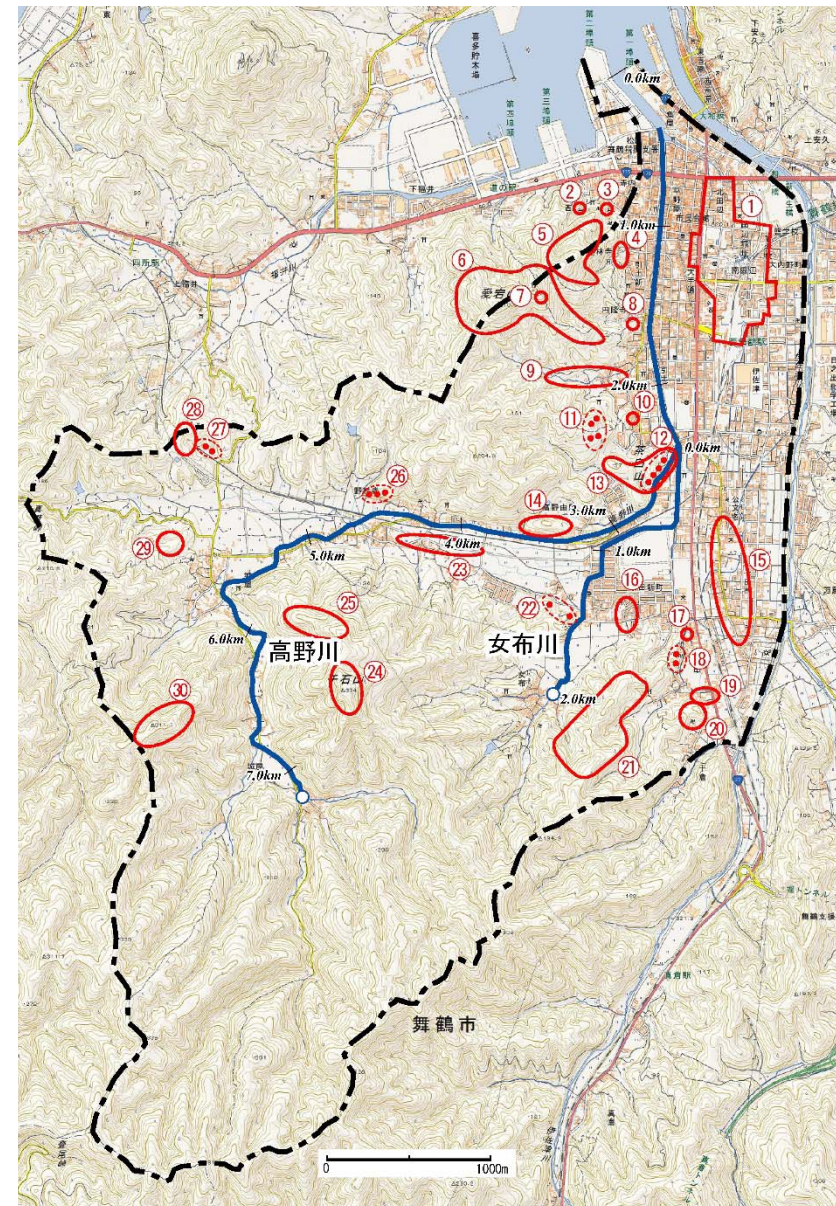
# 高野川水系の概要 (1-⑩ 歴史・文化)

## 文化

### ■文化(史跡・遺跡)

高野川流域には、田辺城跡をはじめとする史跡・遺跡が21箇所、古墳・古墳群が9箇所と、多数の史跡・古墳等が分布している。

番号	名称	番号	名称
1	田辺城跡	16	女布遺跡
2	松林寺古墳	17	大角遺跡
3	妙法寺近世墓	18	1 正勝神社1号墳
4	桂林寺遺跡	18	2 正勝神社2号墳
5	愛宕山北城跡	19	京田丸山1号墳
6	愛宕山城跡	20	京田城跡
7	愛宕山経塚	21	女布城跡(白雲山城)
8	円隆寺古墳	22	1 女布大日山1号墳
9	引土遺跡	22	2 女布大日山2号墳
10	半田焼窯跡	23	高野由里遺跡
11	1 天狗岩1号墳	24	千石山城跡
	2 天狗岩2号墳	25	山上城跡
	3 天狗岩3号墳	26	1 野村寺1号墳(まるこ山)
	4 天狗岩4号墳		2 野村寺2号墳
	3 野村寺3号墳		
12	1 茶臼山1号古墳	27	1 城屋A号窯跡
	2 茶臼山2号古墳		2 城屋B号窯跡
	3 茶臼山3号古墳	28	福井支城跡
	4 茶臼山4号古墳	29	城屋城跡
13	引土城跡(茶臼山城)	30	城屋大谷城跡(城屋別城)
14	高野由里城跡		
15	七日市遺跡		



# 高野川水系の概要 (1-⑩ 歴史・文化)

## 文化

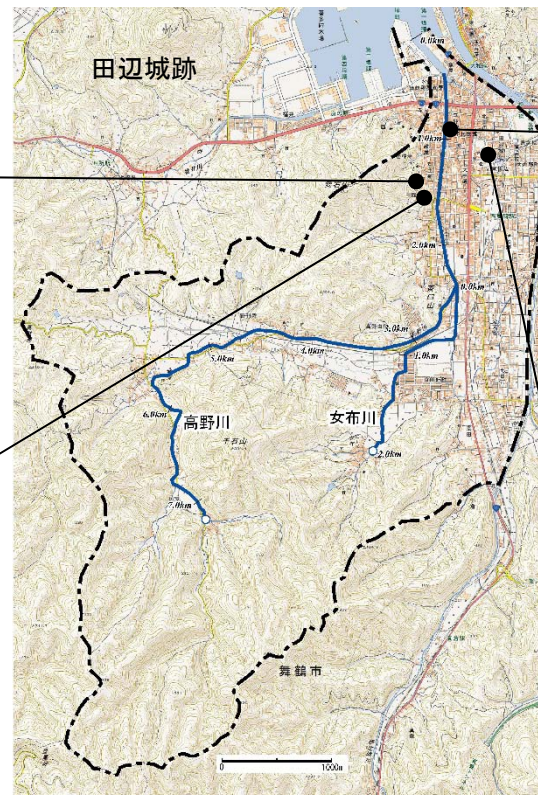
### ■文化

- 「関ヶ原の合戦」の前哨戦になった舞台として有名な田辺城。現在は公園になっており、城門内にある資料館では、田辺の歴史を詳しく知ることができる。
- 朝代神社は、創建が西暦673年といわれる古社で、吉原の太刀振りが行われる。
- 円隆寺は、奈良時代に行基が建設したと伝えられており、丹後大仏といわれる丈六仏などの重要な文化財を多く残している。
- 渡邊家は近世末期に回船問屋を務めた旧家。新倉は高野川の河岸にあり、近隣の土蔵群とともにかつての風情を今に伝えている。

吉原の太刀振り(朝代神社)



円隆寺



渡邊家住宅



田辺城跡



# 高野川水系の概要 (1-⑪ 河川改修の経緯)

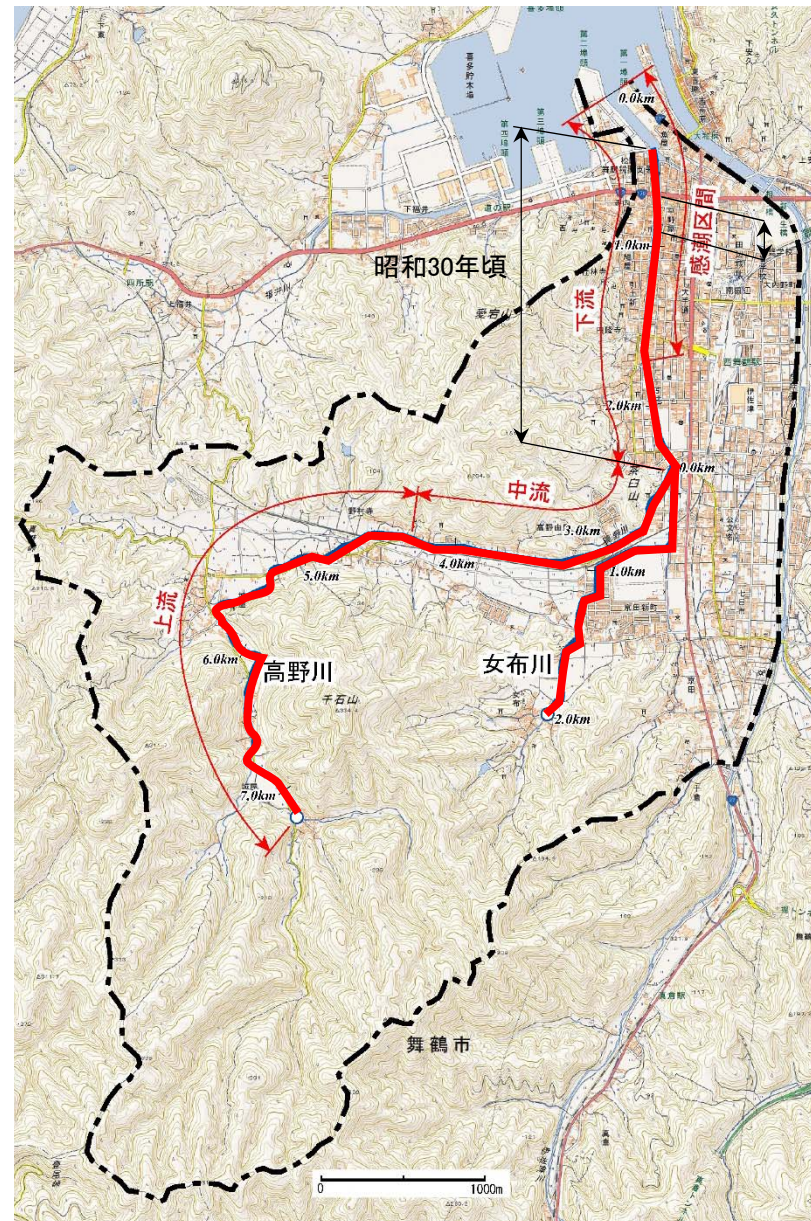
## 河川改修の経緯

### ■ 河川改修の経緯

高野川では、昭和28年台風13号において甚大な被害を受け、これを受け河口から女布川合流部まで2.0km区間の改修を昭和30年頃に実施している。その後は昭和40年～50年に新橋から大橋の約0.3kmの区間の局部改良事業を実施しているが、抜本的な改修は行われていない。

現在のところ、全区間を通じて、概ね50mm/hr相当の雨を安全に流下させる規模の河川改修は実施されていない。

凡例	
50mm/h相当対応区間	— (Blue line)
50mm/h相当未対応区間	— (Red line)



河川局部改良工事 (S40～50)

# 高野川水系の概要 (1-⑫ 浸水被害状況)

## 浸水被害の状況

### ■ 浸水被害

- 高野川流域では、昭和28年9月台風13号により甚大な被害が発生した。
- 近年では、平成16年10月の台風23号において、高潮とも重なったため床上浸水が156棟、床下浸水が642棟、合わせて798棟もの浸水家屋被害が発生した。
- 平成25年9月の台風18号でも高潮と重なったため、多数の浸水家屋被害が発生している。

### 【既往水害一覧】

No	年月日		水害原因	24時間実績雨量※(mm)	被害家屋数(戸)			浸水面積(ha)			台風、豪雨等の期間および潮位等	備考
					床下浸水	床上浸水	計	農地	宅地	計		
1	S28.9.25	(1953)	台風13号	450.1	(14,011)	(4,602)	(18,613)	(735.3)	(90.0)	(825.3)		【出典】舞鶴市の災害履歴及び舞鶴市史 【被害の記載範囲】舞鶴市全域の被害
2	S34.9.26	(1959)	伊勢湾台風15号	248.7	(7,900)	(1,328)	(9,228)	不明	不明	不明		【出典】舞鶴市の災害履歴 【被害の記載範囲】舞鶴市全域の被害
3	S54.9.30	(1979)	台風16号	172.5	514	10	524	7.7	15.5	23.2	台風16号、豪雨(9.24~10.1)	【出典】水害統計
4	S54.10.18	(1979)	台風20号	140.0	43	0	43	0.0	2.7	2.7		【出典】水害統計
5	S56.8.22	(1981)	台風15号	82.0	70	4	74	0.0	0.1	0.1	台風15号(8.21~8.23)	【出典】水害統計
6	S62.8.9	(1987)	豪雨	70.5	45	0	45	0.0	0.9	0.9	豪雨、落雷(8.1~8.15)	【出典】水害統計
7	H2.9.19	(1990)	台風19号	148.5	104	4	108	0.0	1.5	1.5	台風19号(9.11~9.20)	【出典】水害統計
8	H10.9.22	(1998)	台風7号	140.5	(707)	(133)	(840)	(163)	(4.1)	(167.1)	高潮・内水、台風7号 ●最高潮位:T.P+0.91m	【出典】舞鶴市資料 【被害の記載範囲】西地区の被害
9	H11.6.29	(1999)	梅雨前線	115.0	38	0	38	0.0	0.4	0.4	梅雨前線豪雨(6.22~7.4)	【出典】水害統計
10	H16.10.20	(2004)	台風23号	283.0	642	156	798	1.5	50.1	51.6	●最高潮位:T.P+0.76m	【出典】水害統計
11	H22.9.12	(2010)	台風9号	60.0	40	0	40	0.0	0.4	0.4	高潮、台風9号(9.7~9.14) ●最高潮位:T.P0.79m	【出典】水害統計
12	H25.9.16	(2013)	台風18号	279.0	191	130	321	0.0	20.0	20.0	台風18号 ●最高潮位:T.P+0.77m	【出典】舞鶴市資料

※ 24時間実績雨量:舞鶴観測所(気象台)の24時間最大雨量



国道27号線西舞鶴駅前  
昭和28年水害(高野川)



高野川・女布川合流点より上流  
昭和28年水害(高野川)

# 高野川水系の概要 (1-⑫ 浸水被害状況)

## 近年の浸水被害状況(H16.10)



① 平成16年(台風23号)水害【高野由里】



② 平成16年(台風23号)水害【高野由里】

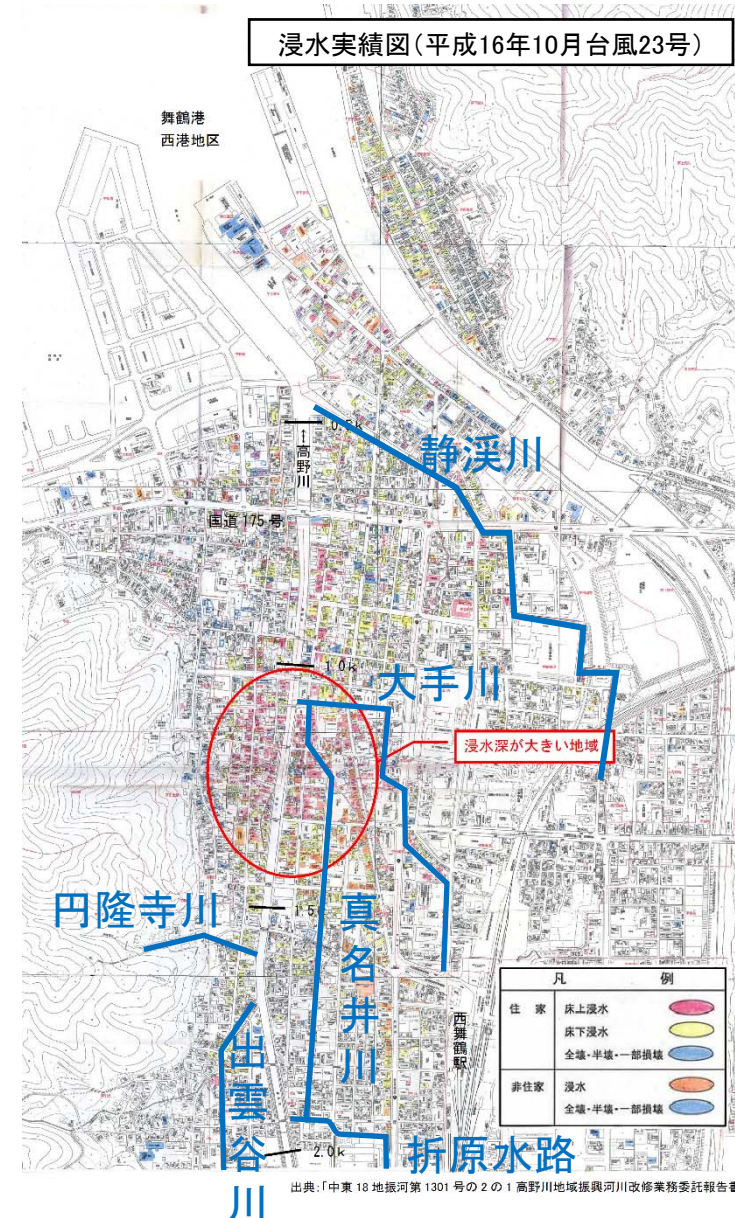
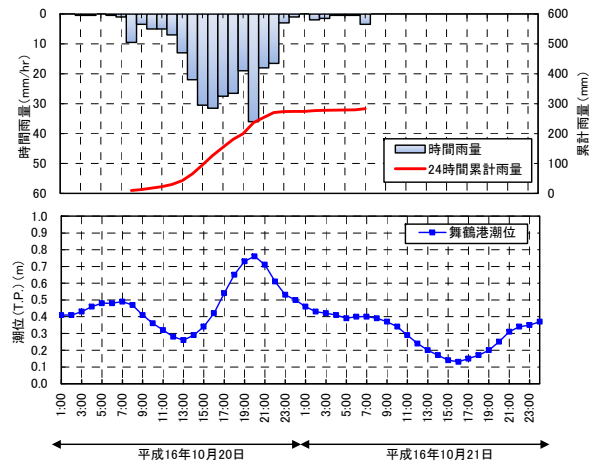


# 高野川水系の概要 (1-⑫ 浸水被害状況)

## 近年の浸水被害状況(H16.10)

### ■ 浸水被害状況(H16.10洪水)

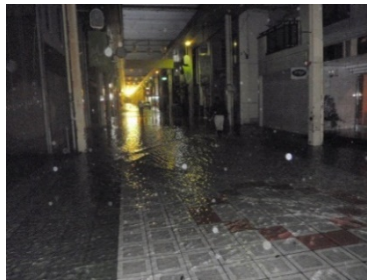
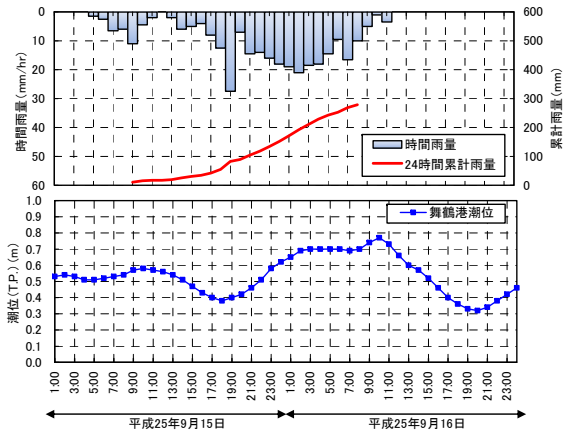
- 平成16年台風23号により、下流区間で多くの浸水被害が発生した。
- 大手川等の高野川に合流する都市下水路は開水路であり、逆流防止施設がなく、また、100箇所を越える排水路にも逆流防止施設がない。このため、高潮と洪水が同時に生起すると洪水位が高くなり、都市下水路を通じて堤内地への逆流や、排水出来ない状況等により内水浸水被害が発生していると考えられる。



出典:「中東18地域河第1301号の2の1高野川地域振興河川改修業務委託報告書」

# 高野川水系の概要 (1-⑫) 浸水被害状況

## 近年の浸水被害状況(H25.9)



新大橋から上流を見る



新大橋から下流を見る

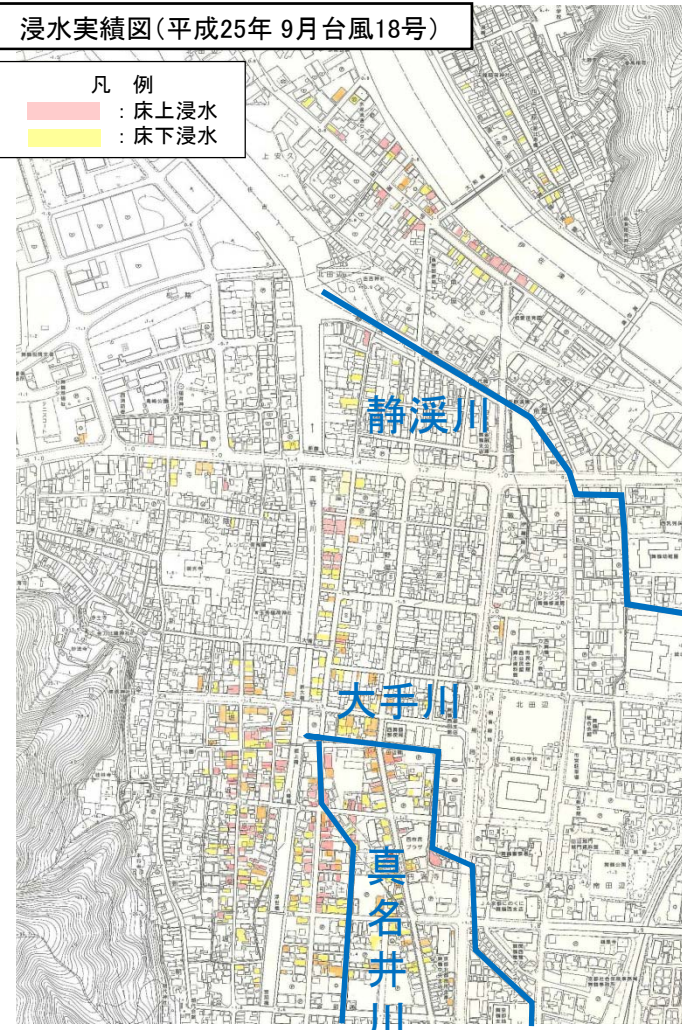
八幡通線～竹屋町通線交差点付近

### ■ 浸水被害状況(H25.9洪水)

- 平成25年台風18号により、下流区間で床下浸水191戸、床上浸水130戸の浸水被害が発生した。

浸水実績図(平成25年9月台風18号)

- 凡例
- : 床上浸水
  - : 床下浸水



※舞鶴市より



# 高野川水系の概要 (1-⑬ 高潮)

## 高潮

順位	発生年月日		時刻	潮位 (T.P.m)	備考
1	平成10年 9月22日	1998	15:00	0.908	台風 7号
2	平成22年 9月19日	2012	4:00	0.889	
3	昭和47年 9月16日	1972	22:00	0.868	
4	平成16年 8月20日	2004	5:00	0.838	
5	平成25年 8月31日	2013	9:00	0.830	
6	昭和55年10月30日	1980	17:00	0.808	
7	平成22年 9月13日	2010	5:00	0.789	台風 9号
8	平成16年 8月19日	2004	16:00	0.788	
9	平成25年 9月16日	2013	9:00	0.770	台風 18号
10	昭和61年 8月30日	1983	4:00	0.768	
11	昭和47年 8月10日	1972	15:00	0.758	
	平成15年 9月14日	2003	4:00	0.758	
	平成16年10月20日	2004	19:00	0.758	台風 23号

### ■高潮

- 昭和43年から平成25年までの34年間を対象に、舞鶴港実績潮位が高い順位抽出すると、浸水被害が甚大であった平成10年9月洪水(台風7号)が第1位、平成16年10月洪水(台風23号)が第11位である。
- 昨年の平成25年9月洪水(台風18号)でもT.P+0.77mと、第9位の順位となる高い潮位であった。
- 24時間雨量が100mmを越えるような降雨状況下で高潮の影響を受けると、下流部では高野川への排水ができなくなるため内水により、浸水被害が発生していると考えられる。

